

Vol. **179** 2021.春夏



特集
I

令和3年度 定時総会

特集
II

木造ハウジングコーディネーター
資格試験

豊かな色彩、やわらかな香り。
生命力あふれる季節です。



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

CONTENTS

木 芽 vol.179

春夏号
令和3年(2021年)
6月30日発行

書家・文字文化文筆家 宇佐美 志都



折々のひとひら 1

特集I

令和3年度定時総会を開催 2

木住協NOW

第24回作文コンクールの応募要領まとまる 10

10月16日、17日に「住まいフェスin京都」10月の住生活月間にあわせて開催 10

FOCUS

WOODRISE 2021 KYOTOへの参加登録のご案内 11

公的統計データから『見える』建築物木造化の動向 13

特集II

20回を迎えた「木造ハウジングコーディネーター」資格制度に変化が

木造ハウジングコーディネーター資格試験 成績優秀者表彰 15

木造ハウジングコーディネーター資格試験を活用し即戦力を育てる新人育成プログラムの成功例 17

木造ハウジングコーディネーター資格試験分析 テストセンター利用と年代別成績のまとめ 19

2021年度木造ハウジングコーディネーター資格試験および講習会の開催について 21

木住協NOW

資材・流通委員会「住まいのトレンドセミナー」開催 22

「木造軸組大工技能の基礎コース」を実施 23

連載

日本の世界遺産探訪／北海道 知床 25

木住協NOW

新規会員紹介 27

編集後記 28

連載

木の匠 Historia／旧沢沢邸 中の家(埼玉県深谷市) 29

窓　窓には「心」の象形が

花々や樹々を、窓越しから眺める昨今。

どことなく足早に過ぎゆく季節の移ろいを、どうにか追いかけるように、今日の日を確認する。

漢字が生まれた世界では、夜、丸窓から差し込む月明かりを、明るさの象徴と感じていた。家屋内の暗闇を照らしてくれる月光は、昼間の太陽とは違える（ちが）る。ありがたさ。陰翳礼讃の念。窓は、古への時代から、人と神羅万象とが通い合う窓口だったに違いない。窓辺に過ぎす時間が与えてくれた、私の思想。

漢字『窓』の成り立ちを、覗いてみよう。漢字上部は、窓枠のある天窓を表しているという。その象形に、「心」を加えるのだから、それ相應の意味があつて然り。漢字『心』は、心臓の象形で、そこが生命の根源であると共に、思想する場所でもあると考へられていたと説かれている。また、日本語としての「こころ」は、凝りかたまるところと、いう意味から成るそうだが、私達は、自身の身体のだこに宿っているのか容易くは、掴めず、時に、凝り固まってしまう「心」というものが、ふと溶けた、解けた時にきつと「幸せ」と、心がひと言つぶやくのだ。

「北窓よぐ塞ぐ」とは、初冬の季語であるが、まさに、寒い時期に窓を開め、寒さから家屋を守る生活様式が詠まれる。人生、防衛も必要な時期もある。しかし私達には、「北窓を開く」という春の季語も持ち合わせている。この人生の窓の開閉を、家屋の窓と寄り添いながら、いまからの時代を暮らしていきたいと思う。

どうか、人類の新しい窓が開き、
見えるもの・見えざるものとの共生という窓が開かれる
ことを、切に願う。

折々のひとひら



令和3年度 定時総会を 開催



2021年5月27日、東京都港区の六本木グランドコンファレンスセンターにて、一般社団法人 日本木造住宅産業協会の定時総会が開催された。今回は、新型コロナウイルスの感染状況を勘案し、安全確保及び感染拡大防止のため、会場への入場者数を制限し、オンライン参加併用で実施された。また、当日の様子は会員限定公開でライブ配信も行われた。定時総会では、①令和2年度事業報告に関する件、②同収支決算に関する件、③役員の選任に関する件—の3議案を審議したほか、令和3年度の事業計画及び収支予算に関する報告も行い、それぞれ満場一致で原案通り承認された。開会の挨拶に立った市川晃会長は、日本の社会経済に大きな変革をもたらす最重要政策として、『2050年カーボンニュートラル』と『DX(デジタル・トランスフォーメーション)』を挙げ、住生活を支える木住協としても早急な対応が必要だと語った。また、SDGs(持続可能な開発目標)・ESG投資(環境・社会・企業統治に配慮した企業を重視・選別して行う投資)などにみ



開会の挨拶を行う市川会長

られる世界的な潮流と、林業・木材産業を抱える我が国の地方創生とを「木材の活用」を通して、しっかりと結びつけるとコメントした。さらに、今年10月に京都で開催する木造による中高層建築物の実現等をテーマにした国際的フォーラム「WOODRISE 2021 KYOTO」への参加を改めて表明し、会員に対しても積極的に関われる環境づくりを目指す姿勢を強調した。定時総会後には、第1回理事会が開催された。コロナ禍のため例年開催されていた懇親パーティは中止とし、功労者表彰については、書面にて定時総会参加者に配布という形になった。



持続可能な社会の実現に向け、 木住協への社会的期待が高まる時代に。

午後2時から六本木グランドコンファレンスセンターで開催された定時総会には、会員18社が出席し、委任状や議決権行使書面の提出が372社となり、正会員571社の過半数に達した。初めに、市川会長が挨拶に立ち、協会設立35周年を目前に控え、会員・関係者への感謝と、木住協が果たすべき役割や今後の展望について語った。

地方創生と木材利用は 切り離せない命題

市川会長は「新型コロナウイルスの終息に向けて、未だ混迷が続く中、ようやく我が国でもワクチン接種が本格化し、先行きに灯りが見えてまいりましたが、昨年度GDP成長率は-4%と低く、二年連続のマイナス成長となりました。その中でも民間住宅投資は昨年、回復基調と言われておりますが、会員の皆様の多くが、現状への対応にご努力を重ねられているということだと思います。住宅業界は、お客様の住生活や社会活動の多くの変化を下支えするとともに、大きな期待を寄せられています。当協会も引き続き品質性能の向上、生活者のための施策提言に力を注いでまいります」と決意を新たにしました。また、住宅業界の情勢と木住協の今後の展開については、「昨年度末に国の住生活基本計画が改定され、住団連においても住生活産業ビジョンの改定が予定されています。加えて協会としても環境にやさしい木を軸に、木造軸組工法の進化に努めるとともに様々な事業を展開しております。SDGs・ESGが世界の大きな潮流となっておりますが、国土の2/3が山林である我が国の地方創生と木材の活用は切り離せないものであり、我々に課せられた役割は大きなものがあると思います」と語った。さらに今年10月に開催されるWOODRISE 2021 KYOTOへの参加については、「従来にも増して木住協のプレゼンスが高まる機会として、皆様にも積極的にかかわっていただけますよう、本部・支部としても、努力してまいります」と会員への積極的参加を呼びかけた。最後に、昨今のウッドショックと呼ばれる木材価格高騰について、問題鎮静化に時

間を要し「木材離れ」につながるのではとの懸念を示しながらも、「関係各所との協力を強化し、木造の建築文化を守っていききたい」との姿勢を強調した。

木の時代をリードする団体としての 一層の活躍に期待

続いて、来賓である国土交通省住宅局住宅生産課の遠山明・木造住宅振興室長が、最近の住宅政策の動向について説明し、「今後一層木材利用が拡大する機運にある」との認識を述べた。そのうえで、木住協の果たす役割や、木造軸組工法の耐火・準耐火構造の研究と普及、安心R住宅制度や既存住宅状況調査、技術者講習の実施、住まいのトレンドセミナー等といった木住協の取り組みに触れ、「今後も木の時代をリードする団体として良質な木造住宅・木造建築の発展に向けて、取り組んでいただきたいと考えています」との期待を表明した。また、国土交通省の取り組みについて説明し、「木造3階建ての学校建築を可能とする改正、CLT工法の一般的設計法の策定、中層の木造建築物について構造部材の木材を現しで見せることを可能とする改正など、建築基準法に基づく構造、防火関係基準の合理化を図っています。こうした木の良さを活かして建てやすくするための取り組みを推進しているところであり、これらを積極的に活用した木造建築の事例が増えることを期待しています。さらに本年2月、中大規模木造建築物の設計に資する技術情報を一元的に提供す



ZOOMで参加された来賓の国土交通省の遠山明・住宅局住宅生産課 木造住宅振興室長

るポータルサイトを開設いたしました。コンテンツの充実などについて、引き続き貴協会にご協力をいただきますとともに、このポータルサイトの活用を通して、一人でも多くの設計者が木造の設計に取り組んでいただくことを願っているところでございます」と語り、木住協と会員各社へ引き続きの協力を仰いだ。

この後、市川会長が議長に就任し、議事録署名人に億田正則副会長と越海興一専務理事の両氏を指名して議事の審議に入った。第1号議案「令和2年度事業報告に関する件」と第2号議案「令和2年度収支決算に関する件」については関連性があることから一括審議され、越海専務理事が報告・説明を行った。報告内容は以下の通り。

■第1号議案「令和2年度事業報告」

- 会員の状況について；令和3年3月31日には、正会員568社、賛助会員とあわせて629社となり、前年度末に比べ3社増加した。
- 会議開催について；定時総会は、本部事務局会議室にて規模縮小にて実施。理事会もコロナ禍のため、第1回・2回は書面にて実施。4月の第1回理事会では、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した会費の減免措置について審議し承認された。運営委員会は令和2年6月から本部事務局会議室で実施。WEB併用での運営も行いながら1年間で計10回の委員会を各月開催した。
- 主要行事への参加及び協賛等について；コロナの影響で5～7月は行事参加等がなく、例年に比べると少ない実績となった。

引き続き、各事業委員会の事業活動が報告された。各事業委員会の主な活動については以下の通り。

●技術開発委員会

- 耐火構造の研究として、1時間・2時間耐火のマニュアルで講習会を実施。「木造耐火大臣認定書」(写し)(1時間耐火構造)の発行件数は270件。初の2時間耐火構造の認定書(写し)の発行が1件あった。また、75分準耐火構造の間仕切壁と外壁の性能評価試験を実施。間仕切壁については大臣認定を取得。モルタル外壁については大臣認定を申請中である。
- 「木造軸組み工法による省令準耐火構造の特記仕様書(木住協仕様)」の頒布数は22,800部(令和2年度)。
- 中大規模木造建築の検討については、真壁5倍耐力壁の開発を行い、性能評価試験を実施。壁倍率4.8倍の大臣認定を取得。また、高耐力耐力壁(木住協仕様)のマニュアル講習会を実施した。2ヶ年計画で中大規模木造建築物のモデル検討を行い、最初のステップとして「木造

事務所建築」についてまとめた。

●生産技術委員会

- リフォーム関連については、「既存住宅状況調査技術者講習」を全国で計14回開催した。また、「安心R住宅」の特定既存住宅情報提供事業者団体登録を受け、各種技術資料を作成。土地建物取引業界の皆様向けに、講習の開催準備を進めている。
- 生産管理関連では、技能者不足対策として富士教育訓練センターにて、木造大工及び工事管理者初級(木住協推奨コース)を実施。また、静岡県支部の協力のもと、技能講習も実施した。さらに、様々な関連団体と連携した取り組みを実施。建設キャリアアップシステムの普及啓発や、特定技能建築大工推進協議会に参加し、建築大工の特定技能外国人の受入体制の整備に取り組んだ。

●資材流通委員会

- 住まいのトレンドセミナーを5回開催。国土交通省住宅局住宅生産課の遠山明・木造住宅振興室長をはじめ、林野庁や学識経験者などを講師として招き講演いただいた。
- 「Select the Best」を年3回発刊。
- 「資産価値のある高耐久住宅研究ワーキンググループ」を開催。資材関係のグループは順調に審議を重ねており、今年度からは住宅関連のワーキンググループが始動。その準備段階として住宅会社7社からヒアリングを実施し、研究テーマの整理に入っている。

●業務広報委員会

- 自主統計調査は358社からの回答を得た。調査結果をまとめて8月に報告会を実施した。
- 広報活動としては、昨年度に木住協のホームページをリニューアルし昨年5月よりオープン。また、メルマガ配信にも力を入れており、現在読者数が1760アドレス程度、年間77回発信している。
- 作文コンクールは海外を含め761校からの応募が寄せられ、応募作品は合計3,674点となった。厳正な審査のもと各大臣賞を選定し、初のオンラインによる表彰式を開催。好評を得たため、今年度も踏襲していく予定。
- 機関誌「木芽」はコロナ禍で取材活動が困難だったため、年2回に圧縮して発刊。

●研修部

- 木造ハウジングコーディネーター資格制度は創設以来20回目を迎え、講習会などをWEBに切り替えて実施。試験についても集合試験ではなく、全国95ヶ所のテストセンターにてデジタル試験を実施。受験者は432名、合格者は332名、合格者の累計は5981名。また、更新



講習も行われ、現有資格者数は2,395名となった。

- 住団連との共同編集により税制のハンドブックを作成。木住協として18,881部を発売。また、会員会社向けに住宅税制改正セミナーをYouTube動画配信した。

●認定事業推進委員会

- 木優住宅の令和2年度の登録実績戸数は20,768戸となり、目標の20,000戸をクリアした。木造住宅検査員講習会は、WEB化を図り登録者数は合計で663名となった。
- 結露・雨漏りでの事故対策に力を入れ、各地での実技講習会を実施。また、工事総合保険その他の補償制度についても展開しており、DXの流れに伴う業務効率化、オンライン化等、様々な切り口での講習を試みた。

●特命担当

- 応急仮設住宅建設に関するマニュアルについて、総会後、全会員に配布予定。協定締結後の具体的な状況としては、岐阜県においてモデル住宅を建てる訓練を実施し、その後の検証に入っている。神奈川県においても、実際の仮設住宅建設予定地の調査・配置計画についてのシミュレーションを実施。

●総務・企画

- 新型コロナウイルス対策の上、定時総会の参加人数を最小限に絞り開催。また従業員への感染防止策として、就業規程の一部改正及び在宅勤務規程を制定し、フレックスタイム、在宅勤務体制を導入した。
- 会費減免措置が承認されたため、会員35社に対し、措置を適用し600万円余りの減収額となった。

●その他の主要業務

- 林野庁「国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会」の地区別需給情報連絡協議会に各支部より委員参加し、各地区2回開催した。
- 中国支部設立の準備を再開。
- WOODRISE 2021 KYOTOの実行委員会に参加し、2020年3月から2021年2月までの間に4回の会議が開催された。

●支部活動について

- コロナ禍で活動は困難だったが、9支部が独自の活動を展開した。総会については集合での開催が難しく書面にて行われた。

●研究資料等成果物発行について

- 技術開発委員会については、前述のとおり中大規模木造の検討が2年間のため、今後まもなく成果物に加わる予定である。

●令和2年度の講習会実施状況について

- コロナ禍でありながらWEBも駆使し、様々な講習会を実施。合計111回の講習会を開催し、3,507名の受講者を得ることができた。

■第2号議案「令和2年度 収支決算に関する件」

事業報告に続き、第2号議案「令和2年度 収支決算に関する件」が報告され、正味財産残高が278,380,001円になり、収支決算についてはおおむね例年と同程度の水準である事などが説明された。第1号議案と第2号議案の審議を受けて監査報告が行われ、殿井一史監事より「厳正な監査を実施し、適正に執行されていることが認められた」との報告があった。この後、市川議長が2議案を諮り、原案通り全員一致で承認した。

■第3号議案「役員の選任に関する件」

この後第3号議案「役員の選任に関する件」に審議が移り、新たな理事に近鉄不動産(株) 常務取締役 ハウジング事業本部長(近畿支部長) 古川浩、三交不動産(株) 常務取締役 戸建事業本部 本部長(中部支部長) 富山拳男、積水ハウス(株) 常務執行役員 ESG経営推進本部長兼渉外部長 豊田治彦、大和ハウス工業(株) 取締役常務執行役員 住宅事業本部長 大友浩嗣、(株)細田工務店 代表取締役社長 平野富士雄の5名、監事に(株)一条工務店 執行役員 営業部部長 高橋聡の1名が選任され、理事27名・監事2名の計29名が選任された。

■【その他事項】令和3年度事業計画及び収支予算に関する報告

定時総会では、引き続き越海専務理事が「令和3年度事業計画及び収支予算」を報告した。事業計画では、重要事項として「支部未設置地域への支部設置を促進し、本部支部連携の強化、充実を通じ、協会活動の活性化を図り、会員サービスの向上を目指す。また、地方公共団体との連携を強化し、本部支部の役割分担のもと会員活動支援のためのプラットフォームを整備するとともに、引続き、災害協定締結の促進や木造応急仮設住宅供給体制の整備を図るなど、地域貢献の強化を目指す。併せて、循環型社会の実現に向け、環境に優しい木材利用や木造建築の推進を図

一般社団法人 日本木造住宅産業協会 役員名簿

令和3年5月27日現在

役員	氏名	主たる職業・役職	会員種別	備考
会長	市川 晃	住友林業株式会社 代表取締役会長	1種A	
副会長	中内 晃次郎	ポラテック株式会社 代表取締役	1種A	
	脇山 章治	株式会社北洋建設 取締役最高顧問(九州支部長)	1種A	
	億田 正則	大建工業株式会社 代表取締役 社長執行役員	2種A	
専務理事	越海 興一	常勤役員		
理事	宮沢 俊哉	株式会社アキュラホーム 代表取締役社長	1種A	
	古川 浩	近鉄不動産株式会社 常務取締役 ハウジング事業本部長(近畿支部長)	1種A	新任
	山口 信仁	サーラ住宅株式会社 代表取締役社長	1種A	
	富山 拳男	三交不動産株式会社 常務取締役 戸建事業本部 本部長(中部支部長)	1種A	新任
	豊田 治彦	積水ハウス株式会社 常務執行役員 ESG経営推進本部長兼渉外部長	1種A	新任
	大友 浩嗣	大和ハウス工業株式会社 取締役常務執行役員 住宅事業本部長	1種A	新任
	佐藤 孝司	株式会社土屋ホーム 副会長	1種A	
	河野 守	株式会社日本ハウスホールディングス取締役日本ハウス事業部 本部長	1種A	
	近藤 昭	株式会社松家住宅 最高顧問	1種A	
	古河 潤一	古河林業株式会社 代表取締役社長	1種A	
	平野 富士雄	株式会社細田工務店 代表取締役社長	1種A	新任
	竹中 宣雄	ミサワホーム株式会社 取締役会長	1種A	
	江井 政仁	株式会社えねい建設 代表取締役(静岡県支部長)	1種B	
	中鉢 悟	株式会社中鉢ホーム 代表取締役社長(神奈川支部長)	1種B	
	安田 正介	株式会社 サンゲツ 代表取締役社長執行役員	2種A	
	喜多村 円	TOTO株式会社 代表取締役会長兼取締役会議長	2種A	
	近藤 芳正	東京ガス株式会社 リビングサービス本部 営業第二事業部長	2種A	
	島村 明	株式会社ノダ 常務取締役	2種A	
	山田 昌司	パナソニック株式会社ハウジングシステム事業部長ライフソリューションズ社上席副社長	2種A	
	柳川 匡史	吉野石膏株式会社 常務取締役 営業統括本部長	2種A	
	高島 太志	株式会社LIXIL常務役員 特需事業本部 本部長	2種A	
	堀 秀充	YKK AP株式会社 代表取締役社長	2種A	
監事	高橋 聡	株式会社一条工務店 執行役員 営業部部长	1種B	新任
	殿井 一史	ニチハ株式会社 取締役専務執行役員	2種A	

※(会員種別順 会社名五十音順)

るべく、SDGsへの取り組みを行う」とし、以下の重要な7項目を列記した。

●令和3年度事業計画重点事項

①良質な住宅ストックの形成とリフォームの推進

耐震性、耐久性等に優れた長期優良住宅及び長期優良住宅化リフォームの普及に努める。低炭素社会の実現に向け、省エネルギー性能に優れた住宅の普及に努める。「安心R住宅」制度及び「既存住宅状況調査技術者」講習を活用し、既存住宅の品質向上と流通促進に取り組む。既存の木造住宅に係る耐震診断や耐震改修の普及に努める。

②木造住宅・建築物の普及促進

木造による耐火建築物や中大規模建築物の普及に向

け、改正建築基準法に対応した準耐火構造仕様の開発や高耐力耐力壁に係るマニュアル、並びに中大規模建築の設計資料集の充実等に努める。また、木造耐火・準耐火・省令準耐火構造、中大規模木造に係る講習の充実を図る。建築物等の木材利用促進に関連する法令に対応し、高齢者福祉施設、医療施設、教育施設等を含む非住宅用途の木造建築物の需要拡大を図る。WOODRISE 2021 KYOTOへの積極参加による木造建築物への知識の研鑽を図る。

③広報活動の推進

小学生対象の「木のある暮らし」作文コンクールを継続実施し、地球にやさしくサステナブルな素材である「木」について広く一般に訴求する。住宅・建築行政に

関する情報収集と会員への迅速な情報提供に努める。
各事業活動のニュースリリース等、積極的広報活動に努める。

④人材育成の推進

講習会、セミナー等のWEB化を推進し、より多彩な受講環境を整備する。住宅建設現場の生産(品質・工程・安全・労務)管理の向上を推進するため、「施工管理チェックポイントマニュアル」を活用したセミナーを実施する。建築大工技能者不足を考慮し、若手技能者育成に向けた教育訓練を支援するとともに、登録建築大工基幹技能者講習を実施して、建築大工のキャリアアップに貢献する。木造ハウジングコーディネーター資格認定制度の充実及び普及を図る。住宅税制、省エネ、スピードスケッチ、木造基礎知識等、人材育成に資する講習を積極的に実施する。

⑤良質な資材の普及と木造化・木質化の推進

快適な住生活、住環境に適した良質な資材の情報収集と普及の推進を図る。「第6回国産材利用実態調査(令和3年実施)」により、国産材利用促進に資する要因を分析する。「資産価値のある高耐久住宅」の普及に向けて、建物外皮に関する資材及び関連サービスについて調査、研究を行う。

⑥木優住宅等の推進

木優住宅の普及拡大を推進するとともに、木造住宅検査員制度を推進し、住宅の品質向上を図る。労災対策の一環として「木住協業務災害補償制度」の普及を図る。

⑦その他活動全般

倫理憲章及び環境行動推進宣言の普及、定着に努めるとともに、無料法律相談を実施する。IT化はじめDXへの対応による業務全般の合理化・効率化を推進する。外部団体との交流を活発化し、地域の実情と会員ニーズに応じた支援メニューの開発等による会員サービスの充実を図る。

重要事項を踏まえた各事業委員会の具体的な事業計画テーマも報告された。このうち新規分の主なテーマは以下の通り。

●技術開発委員会

木造軸組工法技術向上の研究

・木造耐火性能の整備

- ①木造耐火・準耐火構造について講習会の拡充(WEB化)、利用増加策、運用ルール検討。Q&Aの更新。準耐火構造認定仕様追加の検討。準耐火構造外壁等大臣認定取得。

- ②省令準耐火構造について利用増加策の検討。Q&Aの更新。

・中大規模木造建築の整備

- ①中大規模木造建築物設計・施工基準の整備。
- ②高耐力壁の追加仕様の検討・整備。マニュアル改訂。

・WEB

WEB講習会の充実。認定書(写し)発行管理。問い合わせ対応。Q&Aの更新。

・その他

- ①回収成功事例集について、生産技術のリフォーム支援制度(耐震改修)との連携。
- ②木造建築の性能向上に係る検討。木材利用・木質化アイデア収集。

・建基法関係法令等の改正に伴う対応、技術成果物の改訂

- ①建築基準法改正、公示公布等に対する木住協の提案

※WOODRISE 2021 KYOTOへの参加

●生産技術委員会

リフォーム関連

- ①既存住宅状況調査技術者新規講習のWEB化推進。
- ②安心R住宅制度の研修実施と長期優良リフォームの推進。

生産管理関連

- ①現場の働き方改革に係る週休2日制導入の具体策の検討と推進。
- ②セミナーのオンライン化の推進。

安全衛生・CS関連

- ①本足場の本格設置の法制化に向けた準備と普及推進。
- ②セミナーのオンライン化の推進。

建設副産物関連

- ①石綿則改正に伴う現場対応の具体策の構築

生産技術に関する情報収集及び情報発信 (外部委員会参加を含む)

- ①支部との連携(セミナーの共催等)

※WOODRISE 2021 KYOTOへの参加

●資材・流通委員会

2種会員の商品情報の発信と勉強会の実施

- ①「Select the Best」のリフォーム・リノベーション、高耐久仕様等のテーマ版の発刊。

※WOODRISE 2021 KYOTOへの参加

●業務・広報委員会

委員会活動

- ①年間10回以上の委員会開催

自主統計及び着工統計の分析報告書の発行

- ①自主統計アンケートの名称を自主統計調査とする。
WEBによる回答を導入して回答者の負担軽減を図る。

広報活動

- ①オンライン記者発表など状況に応じた広報活動をする

WOODRIS E2021 KYOTOを活用した木造建築のアピール強化。

②ホームページに講習会動画を掲載して会員利便性を上げる。

③メールマガジン会員の増員を図る。

作文コンクールの実施

①第23回オンライン表彰式動画を活用し学校からの応募数増加を目指す。

機関誌「木芽」の発行

①支部活動（応急仮設等）の取組み状況報告の充実。全面的刷新の検討。

書籍・その他

①環境コンテンツをホームページキッズサイトにアップする。

※WOODRISE 2021 KYOTOへの参加

木造HC資格制度の推進

①学生と2種会員の増加を目指す。

「住宅・税制(ガイドブック)」の改定と発行

①ホームページにセミナー動画を掲載する。

省令準耐火講習会の開催

①WEB講習会による受講者増加を目指す。

スピードスケッチセミナーの開催

①オンラインセミナーの開発

木造軸組工法住宅の基礎御知識講習の開催

①新テーマ「資金計画」を盛り込んだ講習内容の充実

その他

①関連情報の収集

●認定事業推進委員会

「木優住宅」取扱い事業運営

①10年延長保険の利用促進

②共同住宅取扱い強化

③リフォーム・既存売買瑕疵保険の取り扱い拡充

④木造検査員WEB新規講習の導入

⑤各保険法人新商品の導入

「木優住宅」の瑕疵保障事故の抑制

①検査WG：体験型実技研修の充実②普及促進WG：保険申請業務の合理化

木造軸組工法住宅の管理体制の向上

①書面による現場監査の導入

「木住協保険」取り扱い事業運営

①工事総合保険内容の改善、木造建築物へ保険適用拡大

②労災上乗せ保険の利用推進

③地盤保険の利用推進

住宅瑕疵担保履行法の対応

①団体制度の適正な運営改善

②5 保険法人の強み活用

その他

①電子化への対応

②ストック市場への取組

③支部と連携した活動推進

※WOODRISE 2021 KYOTOへの参加

●総務・企画 特命担当

WOODRISE 2021 KYOTO

①WOODRISE 2021 KYOTOへの参加（JIBH・支部との連絡調整）

災害時の木造応急仮設住宅の対応

①応急仮設住宅供給マニュアルの活用

各支部の事業計画のテーマもあわせて発表された。主な事業計画は次の通り。

●北海道支部

①木造応急仮設住宅建設に関する検討

②協定締結に関する活動

③各種セミナー等の開催

④建築物等の見学会実施

⑤他支部との意見交換

●東北支部

①セミナーの実施

②木造建築物見学研修会

③応急仮設住宅建設協定締結に向けた活動

●神奈川支部

①神奈川家づくりフェア参画

②商品情報収集見学会の実施

③研修セミナーの開催

④ショールーム・工場見学会の開催

⑤経済・業界動向の経営セミナーの開催

⑥応急仮設住宅建設協定に係る知識・技術の習得

●北陸支部

①「リスク対策セミナー」、「住宅税制講習」の実施

②応急仮設住宅建設協定締結に向けた活動

●静岡県支部

①経営者研修、技術者講習会、営業研修の実施

②「木芽」を活用した営業活動

③現場見学会の実施（東・中・西部各2回開催）

④応急仮設住宅協議会の活動

⑤自然災害に対する共同活動

●中部支部

①賀詞交歓会の開催

②1種正会員、2種正会員相互の連携強化を目的とした各種勉強会の開催

- ③歴史的建築物や町並み及び住関連資材工場の研修見学会の開催
- ④本部と連携したセミナーの実施・行政との連携強化

●近畿支部

- ①講演会の開催
- ②商品・技術勉強会の実施
- ③「木造住宅の日」記念研修見学会の実施
- ④「伝統的建築物」研修見学会の実施
- ⑤他支部との情報交換
- ⑥木造住宅耐震診断・改修相談窓口への技術者派遣
- ⑦応急仮設住宅建設協定締結・活動

※WOODRISE 2021KYOTOへの参加促進に向けた本部との連携

●四国支部

- ①各種セミナーの開催
「住宅税制講習」「1時間2時間耐火マニュアル講習」
「省令準耐火講習」
- ②「歴史的建築物等」の研修見学会の実施
- ③応急仮設住宅建設に係る各県との連絡・調整

●九州支部

- ①会員相互の情報交換

- ②支部総会の開催
- ③講習会・セミナーの開催
- ④会員開催イベントへの参加
- ⑤「森林環境保護」活動への参加等
- ⑥「歴史的建築物等」の研修見学会の実施
- ⑦各エリアの支部活動(懇談会等)の実施
- ⑧各エリアにおける災害協定締結の推進
- ⑨小学校訪問PR活動(1社5校)
- ⑩応急仮設住宅建設協定締結・活動

この後、定時総会では越海専務理事から令和3年度収支



定時総会終了後に行われた、第2回理事会の様子

功労者表彰受賞者

■事業部門表彰

木優住宅事業関係

- | | |
|----------------------|-------------|
| (株)日本ハウスホールディングス | (株)ハウジングエール |
| (株)オープンハウス・ディベロップメント | (株)Lib Work |
| (株)エサキホーム | (株)細田工務店 |
| (株)土屋ホーム | 千里殖産(株) |
| (株)谷川建設 | (有)根津工務店 |
| 大賀建設(株) | イデキョウホーム(株) |
| (株)平成建設 | |

1時間耐火構造関係

- | | |
|--------------------|------------|
| (株)アーキセプト | (株)リパティホーム |
| (株)オフィス・ケイ・エイアンドエイ | (株)蓮川工務店 |

省令準耐火構造関係

- | | | |
|-------------|-----------|----------|
| (株)ヤマダホームズ | レオハウス事業本部 | ポラテック(株) |
| (株)Lib Work | | |

木造ハウジングコーディネーター関係

- | | |
|------------|-----------|
| (株)アキュラホーム | タカノホーム(株) |
| 住友林業(株) | |

本部推進 団体

- | |
|---------|
| (株)新和建設 |
|---------|

■業務部門表彰(功労者)

本部関係

- | |
|-----------------------|
| 岩田 裕治(株)一条工務店) |
| 喜多 大悟(株)LIXIL) |
| 佐々木智生(ミサワホーム(株)) |
| 伊藤 伸志(株)アキュラホーム) |
| 樋口 茂(パナソニックホームズ(株)) |
| 野中 悠貴(株)エヌ・シー・エヌ) |
| 渡邊 邦夫(サーラ住宅(株)) |
| 松田 浩司(ニチハ(株)) |
| 鈴木 誠(菊池建設(株)) |
| 谷口 修司(パナソニックホーム(株)) |
| 石渡 玉枝(株)エヌ・シー・エヌ) |
| 井上 理絵(BXカネシン(株)) |
| 小尾 英彰(ジャバンホームシールド(株)) |

支部関係

- | | |
|------|---|
| 中部支部 | 吉村 卓真(株)LIXIL LIXIL WATER TECHNOLOGY JAPAN) |
| | 鈴川 賢一(TOTO(株)) |
| | 吉田 忠史(大建工業(株)) |
| 近畿支部 | 林 直樹(大和ハウス工業(株)) |
| | 伊藤 隆博(国土建設(株)) |
| | 日高 博(株)ハウステック) |
| 九州支部 | 濱崎 雅夫(松島建設工業(株)) |
| | 亀川 謙二(扶桑建設(株)) |

(敬称略)

第24回作文コンクールの 応募要領まとまる

小学生対象に、「木のある暮らし」の作品募集を開始



(一社)日本木造住宅産業協会は、今年度も小学生などの児童を対象にした作文コンクールを開催いたします。前年度に続いて国土交通省をはじめとして文部科学省、農林水産省、環境省、外務省、住宅金融支援機構、朝日学生新聞社などから後援をいただきました。このほど、24回目となる今年度の作文コンクールの応募要領がまとまりました。会員企業の皆さまには、自社の店頭やモデルハウス内に開催告知ポスター類を掲示し、来場者や見込み客の、またご自身の小学生のお子様に作文コンクールへの応募をお願いしてください。

応募の締め切りは9月6日(当日消印有効)

木住協では毎年10月18日を「木造住宅の日」と定めおり、10月の住生活月間イベントとして、全国の小学校ならびに特別支援学校や海外の日本人学校他に広くご案内し、作文コンクールを実施しています。各校には主に夏休みの自由課題として取り組んでいただいております。本年で24回目となります。テーマは「木のある暮らし」で、身近な生活の中にあるいろいろな「木」に注目し取り上げて作文を書くことで、地球や人にやさしい素材である「木」を理解するきっかけになれば、という想いを込めています。あわせて木造軸組工法住宅などの普及・促進を目的に開催するものです。

第24回の作文コンクールは9月6日(月曜日、当日消印有効)に締め切り、厳正な審査を経て10月30日(土曜日)に昨年度同様オンラインによる表彰式の開催を予定しています。応募は、低学年の部(小学1年生から3年生ならびにこれに準ずる学年・年齢)と高学年の部(小学4年生から6年生ならびにこれに準ずる学年・年齢)に分け、文字数はそれぞれ1200字以内としています。

応募作品は原稿用紙に本人が手書きで書いていただき、小学校などを通じての応募と個人での応募も受け付けています。作品は未発表のものに限り、受賞作品の著作権は主催者に帰属します。

低学年、高学年とも国土交通大臣賞をはじめ5省の大臣賞や住宅金融支援機構理事長賞、日本木造住宅産業協会会長賞を設けております。このほか朝日小学生新聞賞や審査員特別賞、木住協ブロック賞、佳作、最優秀団体賞、優秀団体賞も表彰いたします。各受賞者には賞状と副賞(図書カード)を進呈し、応募者全員に参加賞として「かわくと木になるエコねんど」をプレゼントいたします。

作文コンクールについての詳細は木住協ホームページ <https://www.mokujukyo.or.jp/lifewithwood/concour/> をご覧ください。また、問合せは、作文コンクール事務局
TEL 03-5114-3015
MAIL contactmail@mokujukyo.or.jp
までお願いいたします。

10月16日、17日に「住まいフェスin京都」 10月の住生活月間にあわせて開催

「『新たな日常』をもっと快適にー『働く・子育て・災害対策・脱炭素』家族とミライがつながる省エネ健康住宅ー」をテーマに

住生活月間に合わせて行われる住生活月間中央イベントの「住まいフェスin京都」が、10月16日(土)と17日(日)の両日、京都市左京区にある国立京都国際会館で開催されることになった。今回は「WOODRISE 2021 KYOTO」と同時・同一会場での開催となる。「住まいフェスin京都」のほか、住生活月間中にホームページ「住宅・すまいWeb」による情報発信や3DVRシステムによる、展示会場のヴァーチャルツアーなど、最先端の住生活を啓発することになっている。

この住まいフェスなどは、住生活月間実行委員会と住生活月間中央イベント実行委員会が主催する国内最大級規模の住宅関連イベント(国土交通省のほか住宅金融支援機構、都市再生機構、京都府、京都市などが後援予定)。平成元年に制定された毎年10月の「住生活月間」に合わせ、国民の皆さんに住情報や住環境に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、同年に第1回ハウジングフェアが東京・汐留で開催され、今回で33回目の開催となる。

WOODRISE 2021 KYOTO

への参加登録のご案内

2021年10月15日(金)から18日(月)まで、国立京都国際会館においてWOODRISE 2021 KYOTOが開催されます。

今回は、京都市内の現地参加と併せ、オンライン参加も可能とする「ハイブリッド開催」になります。いずれの参加形態におきましても、全期間の参加登録が前提となります。

なお、現地参加、オンライン参加のいずれにつきましても参加登録費は同額です。あらかじめご了承の上お申し込みください。WOODRISE 2021 KYOTO の概要については、主催団体(一社)国際建築住宅産業協会(Japan International Association for the Industry of Building and Housing) : JIBHの大会HP (<http://woodrise2021.jp/>)、会場は国立京都国際会館(<https://www.icckyo.or.jp/>)をご参照ください。



01 木住協会員向け団体割引について[会員限定]

JIBHの料金体系とは別に、木住協会員向けに参加登録を募集しております。

木住協で参加登録いただいた場合、**会員限定で一般カテゴリー参加登録費は20,000円割引の60,000円となります。**

ただし、登録時に同時受付となる、同伴者の料金(20,000円)及び社交行事(ガラディナー)料金(10,000円)につきましては、団体割引制度はございません。

なお、**テクニカルツアー**につきましては、別途JIBH(JTB)に申込手续を行うこととなりますが、木住協団体割引で参加登録された方の申込開始については追ってご連絡いたします。

02 木住協会員向け参加登録の方法

■参加登録費

カテゴリー	事前登録 2021年5月1日～9月14日	当日登録 2021年10月15日～17日
一般	80,000円 木住協団体割引60,000円	100,000円
学生	10,000円	
同伴者	20,000円	
社交行事：ガラディナー	10,000円(先着順)	
テクニカルツアー：(1コースあたり)	15,000円(別途 申込み。先着順)	

■登録期間 開始日：2021年5月1日(土)
締切日：2021年9月14日(火) 12:00 (正午 JST)

■登録方法

下記「木住協会員向け参加登録フォーム」をダウンロードし、必要事項ご記入のうえ、メールにてお申し込みください。

「木住協会員向け参加登録フォーム」

木住協HP内【<https://www.mokujukyo.or.jp/news/detail/id=10324>】

※会員ログインが必要です。

メールの宛先：somu@mokujukyo.or.jp



03 開催概要

会 期：2021年10月15日(金)～18日(月)
会 場：国立京都国際会館 ※現地／オンライン参加によるハイブリッド開催
テ ー マ：持続可能な開発に向けた木の建築
伝統から未来へ
主 催：一般社団法人国際建築住宅産業協会(JIBH)
共 催：国立研究開発法人建築研究所、FCBA、FPIInnovations
後 援：国土交通省、林野庁、外務省、環境省
開催規模：1,000人程度(うち海外からの参加予定200人程度)

■全体会議・テクニカルワークショップ プログラム ※CPD共通認定プログラム

10月16日(土)(8:30～17:00)		10月17日(日)(8:30～17:30)	
開会・ウェルカムスピーチ 導入講演 後藤 治(工学院大学)		二日目開会	
全体会議Ⅰ(PART1) 「木材利用の効果・メリット」 地域活性化、持続可能性への貢献を含めた木材利用の効果・メリット		全体会議Ⅲ(PART1) 「施策と産業」 公共政策、木造振興施策	
全体会議Ⅰ(PART2) 「木材利用の効果・メリット」 健康や快適さの観点からみた木材利用の効果・メリット		全体会議Ⅲ(PART2) 「施策と産業」 市場・産業の動向	
ランチ			
記念講演 「木の時代へ」(仮) 隈 研吾(隈研吾建築都市設計事務所)		特別セッション 木造建築の振興とSDGsの視点 【基調講演】 坂茂 (慶應義塾大学教授／坂茂建築設計)	
全体会議Ⅱ 「プロジェクトの動向、事例紹介」		特別セッション アジア・オセアニアの住宅市場	テクニカルワークショップ テーマ1「施工技術 工法 産業化」 テーマ2「防火」 テーマ3「地震リスク、構造耐力」 テーマ4「音響・振動性能」 テーマ5「耐久性等、その他の技術的課題」 テーマ6「木造建築のための森林資源」
一日目閉会		閉会	

■展示及びその他の行事

→ 展示

10月16日(10時～17時)、17日(9時～15時) 於アネックスホール

→ スポンサーセッション

10月16日、17日(時間未定) 於アネックスホール

→ テクニカルツアー

10月18日(2コース)

◆本大会の詳しい内容は、本大会HP【<http://www.woodrise2021.jp/>】をご覧ください。





公的統計データから『見える』建築物木造化の動向(参考資料)

用途別木造化率の推移

表1 着工建築物：用途別木造化率(H18～R2の15年間推移)

(注) 公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律
(平成22年5月26日公布、同年10月1日施行)

年 度	全建築物						うち住宅					
	全 数		うち木造		木造化率		全 数		うち木造		木造化率	
	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率
令和2年度	533,806	114,299,670	407,147	49,774,984	76.3%	43.5%	458,964	65,782,183	383,879	45,401,292	83.6%	69.0%
令和元年度	589,024	124,937,770	444,778	54,830,300	75.5%	43.9%	504,320	72,602,292	419,252	49,995,790	83.1%	68.9%
平成30年度	604,622	131,079,408	450,698	55,935,209	74.5%	42.7%	515,860	75,630,102	424,926	55,401,653	82.4%	73.3%
平成29年度	599,483	133,029,356	443,129	55,727,259	73.9%	41.9%	507,642	76,184,603	416,003	50,625,687	81.9%	66.5%
平成28年度	610,001	134,186,801	449,704	56,711,527	73.7%	42.3%	519,443	78,783,021	423,517	51,852,675	81.5%	65.8%
平成27年度	591,381	129,424,092	432,934	54,138,702	73.2%	41.8%	501,394	76,093,826	406,569	49,514,326	81.1%	65.1%
平成26年度	582,115	130,790,921	421,868	52,653,631	72.5%	40.3%	489,889	74,135,778	395,211	48,009,518	80.7%	64.8%
平成25年度	676,685	148,635,889	499,315	61,997,159	73.8%	41.7%	579,469	87,633,178	470,778	57,125,351	81.2%	65.2%
平成24年度	616,510	135,454,057	449,936	55,550,724	73.0%	41.0%	522,937	79,483,121	422,664	51,060,193	80.8%	64.2%
平成23年度	585,930	127,292,010	428,870	52,915,220	73.2%	41.6%	498,405	75,872,372	402,888	48,609,170	80.8%	64.1%
平成22年度	582,139	122,283,007	428,541	52,799,997	73.6%	43.2%	495,575	74,073,871	402,628	48,593,546	81.2%	65.6%
平成21年度	538,220	113,196,104	392,956	48,802,503	73.0%	43.1%	454,526	68,029,301	366,567	44,946,751	80.6%	66.1%
平成20年度	605,467	151,393,221	431,029	54,669,975	71.2%	36.1%	505,529	86,414,176	401,523	50,313,443	79.4%	58.2%
平成19年度	626,763	157,221,530	445,460	56,293,896	71.1%	35.8%	521,308	88,118,903	415,171	51,892,850	79.6%	58.9%
平成18年度	727,882	187,614,047	507,187	63,942,611	69.7%	34.1%	600,032	108,486,660	472,681	58,893,364	78.8%	54.3%
15年計	9,070,028	2,040,837,883	6,633,552	826,743,697	73.1%	40.5%	7,675,293	1,187,323,387	6,224,257	762,235,609	81.1%	64.2%
15年平均	604,669	136,055,859	442,237	55,116,246	73.1%	40.5%	511,686	79,154,892	414,950	50,815,707	81.1%	64.2%

年 度	うち事務所						うち店舗					
	全 数		うち木造		木造化率		全 数		うち木造		木造化率	
	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率
令和2年度	10,312	6,088,179	3,889	561,194	37.7%	9.2%	5,059	4,062,185	1,426	204,719	28.2%	5.0%
令和元年度	11,582	6,526,707	3,881	560,455	33.5%	8.6%	6,289	4,151,476	1,846	268,248	29.4%	6.5%
平成30年度	11,090	6,087,954	3,838	546,787	34.6%	9.0%	7,384	5,213,313	1,873	264,488	25.4%	5.1%
平成29年度	11,413	6,680,818	3,962	590,053	34.7%	8.8%	7,856	5,530,444	2,120	286,254	27.0%	5.2%
平成28年度	11,273	6,688,331	3,741	519,735	33.2%	7.8%	8,346	5,614,685	2,053	294,595	24.6%	5.2%
平成27年度	11,039	6,124,328	3,675	504,423	33.3%	8.2%	8,603	6,052,274	2,212	304,420	25.7%	5.0%
平成26年度	10,547	6,187,376	3,488	469,466	33.1%	7.6%	9,512	7,147,226	2,209	302,445	23.2%	4.2%
平成25年度	10,552	6,274,195	3,214	433,675	30.5%	6.9%	10,118	8,350,260	2,478	318,083	24.5%	3.8%
平成24年度	10,480	6,123,351	3,063	394,124	29.2%	6.4%	9,674	7,433,253	2,419	302,263	25.0%	4.1%
平成23年度	9,707	5,831,004	2,793	362,239	28.8%	6.2%	8,422	5,197,338	2,323	285,675	27.6%	5.5%
平成22年度	9,402	5,547,843	2,656	318,990	28.2%	5.7%	7,495	5,744,663	2,228	279,998	29.7%	4.9%
平成21年度	8,988	7,061,203	2,563	295,789	28.5%	4.2%	7,868	5,526,425	2,255	259,535	28.7%	4.7%
平成20年度	12,182	8,581,081	3,251	379,534	26.7%	4.4%	9,591	8,278,476	2,613	323,922	27.2%	3.9%
平成19年度	13,466	7,391,008	3,414	393,211	25.4%	5.3%	10,353	12,976,820	2,676	317,511	25.8%	2.4%
平成18年度	16,594	7,925,820	3,866	449,508	23.3%	5.7%	12,607	11,321,112	3,173	396,410	25.2%	3.5%
15年計	168,627	99,119,198	51,294	6,779,183	30.4%	6.8%	129,177	102,599,950	33,904	4,408,566	26.2%	4.3%
15年平均	11,242	6,607,947	3,420	451,946	30.4%	6.8%	8,612	6,839,997	2,260	293,904	26.2%	4.3%

年 度	うち学校の校舎						うち病院・診療所					
	全 数		うち木造		木造化率		全 数		うち木造		木造化率	
	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率
令和2年度	1,727	2,237,182	219	94,592	12.7%	4.2%	1,752	1,833,263	906	205,893	51.7%	11.2%
令和元年度	1,954	2,268,603	247	80,044	12.6%	3.5%	1,744	2,065,092	956	209,954	54.8%	10.2%
平成30年度	2,062	2,483,990	259	89,129	12.6%	3.6%	1,897	1,636,793	944	189,335	49.8%	11.6%
平成29年度	2,256	2,344,278	226	100,770	10.0%	4.3%	1,907	2,104,305	946	217,568	49.6%	10.3%
平成28年度	2,417	3,107,890	224	84,984	9.3%	2.7%	2,081	2,773,776	934	195,500	44.9%	7.0%
平成27年度	2,815	3,684,777	286	121,183	10.2%	3.3%	2,123	2,709,233	946	189,926	44.6%	7.0%
平成26年度	3,433	4,186,500	334	116,516	9.7%	2.8%	2,242	3,372,358	940	184,912	41.9%	5.5%
平成25年度	3,842	4,800,318	293	93,630	7.6%	2.0%	2,752	4,153,420	1,079	204,543	39.2%	4.9%
平成24年度	3,638	4,582,279	336	109,640	9.2%	2.4%	2,497	3,724,578	897	165,353	35.9%	4.4%
平成23年度	3,600	4,413,625	270	74,582	7.5%	1.7%	2,463	4,575,080	839	159,586	34.1%	3.5%
平成22年度	3,892	4,401,027	291	92,091	7.5%	2.1%	2,445	3,513,206	860	165,880	35.2%	4.7%
平成21年度	3,641	4,278,060	253	78,123	6.9%	1.8%	2,246	2,291,355	903	158,154	40.2%	6.9%
平成20年度	3,126	3,973,980	214	74,525	6.8%	1.9%	2,254	2,311,694	937	164,661	41.6%	7.1%
平成19年度	3,120	3,834,903	199	62,390	6.4%	1.6%	2,536	3,036,277	987	181,609	38.9%	6.0%
平成18年度	3,424	4,129,149	229	76,415	6.7%	1.9%	3,095	2,985,440	1,059	181,420	34.2%	6.1%
15年計	44,947	54,726,561	3,880	1,348,614	8.6%	2.5%	34,034	43,085,870	14,133	2,774,294	41.5%	6.4%
15年平均	2,996	3,648,437	259	89,908	8.6%	2.5%	2,269	2,872,391	942	184,953	41.5%	6.4%

出典：国土交通省 建築着工統計調査

都道府県別木造化率(4用途の15年分合計値)

表2 着工建築物：都道府県別の用途別木造化比率(建築物の棟数)

都道府県	H18～R2(年度)											
	事務所			店 舗			学校の校舎			病院・診療所		
	全棟数	うち木造	木造化率	全棟数	うち木造	木造化率	全棟数	うち木造	木造化率	全棟数	うち木造	木造化率
北海道	8,377	3,393	40.5%	5,591	2,541	45.4%	1,441	207	14.4%	1,362	585	43.0%
青森	1,596	838	52.5%	1,517	381	25.1%	400	60	15.0%	316	162	51.3%
岩手	2,616	1,281	49.0%	1,672	459	27.5%	672	162	24.1%	443	237	53.5%
宮城	5,511	1,908	34.6%	2,030	519	25.6%	1,169	145	12.4%	774	417	53.9%
秋田	1,849	1,060	57.3%	1,385	472	34.1%	317	89	28.1%	328	192	58.5%
山形	1,850	961	51.9%	1,695	625	36.9%	411	47	11.4%	401	222	55.4%
福島	4,124	1,632	39.6%	2,737	861	31.5%	860	103	12.0%	570	290	50.9%
茨城	5,360	1,897	35.4%	3,583	1,260	35.2%	1,053	111	10.5%	991	508	51.3%
栃木	3,571	1,399	39.2%	2,691	893	33.2%	619	106	17.1%	650	349	53.7%
群馬	3,874	1,667	43.0%	2,858	996	34.8%	778	49	6.3%	810	416	51.4%
埼玉	7,410	2,367	31.9%	6,227	1,661	26.7%	1,455	115	7.9%	1,567	645	41.2%
千葉	6,716	1,984	29.5%	5,002	1,180	23.6%	1,593	144	9.0%	1,159	477	41.2%
東京	12,400	1,364	11.0%	9,147	1,180	12.9%	2,803	75	2.7%	1,475	416	28.2%
神奈川	6,618	1,373	20.7%	4,698	837	17.8%	2,494	189	7.6%	1,238	429	34.7%
新潟	4,114	1,772	43.1%	3,394	1,361	40.1%	722	65	9.0%	701	410	58.5%
富山	1,833	639	34.9%	1,410	381	27.0%	397	15	3.8%	362	159	43.9%
石川	1,938	684	35.3%	1,933	643	33.3%	338	18	5.3%	375	206	54.9%
福井	1,478	564	38.2%	1,233	381	30.9%	276	24	8.7%	237	110	46.4%
山梨	1,292	505	39.1%	1,154	305	26.4%	431	32	7.4%	341	175	51.3%
長野	3,067	1,175	38.3%	2,388	657	27.5%	1,076	101	9.4%	831	418	50.3%
岐阜	2,529	872	34.5%	2,514	447	17.8%	1,022	71	6.9%	846	419	49.5%
静岡	6,491	1,591	24.5%	5,240	1,398	26.7%	1,096	59	5.4%	1,271	586	46.1%
愛知	9,421	2,182	23.2%	9,008	2,233	24.8%	2,324	109	4.7%	2,572	1,032	40.1%
三重	3,044	840	27.6%	2,320	655	28.2%	571	44	7.7%	608	261	42.9%
滋賀	2,311	708	30.6%	1,766	502	28.4%	630	31	4.9%	432	230	53.2%
京都	2,609	678	26.0%	2,049	439	21.4%	1,354	106	7.8%	584	213	36.5%
大阪	7,686	1,375	17.9%	5,940	908	15.3%	2,243	57	2.5%	1,402	388	27.7%
兵庫	6,031	1,305	21.6%	4,848	1,286	26.5%	2,167	183	8.4%	1,201	437	36.4%
奈良	1,400	413	29.5%	1,204	257	21.3%	447	20	4.5%	331	113	34.1%
和歌山	1,376	462	33.6%	958	212	22.1%	526	49	9.3%	312	170	54.5%
鳥取	896	369	41.2%	767	205	26.7%	378	52	13.8%	226	109	48.2%
島根	1,131	465	41.1%	834	235	28.2%	301	57	18.9%	231	118	51.1%
岡山	2,573	660	25.7%	1,960	378	19.3%	1,194	60	5.0%	669	253	37.8%
広島	3,499	834	23.8%	2,466	379	15.4%	1,388	113	8.1%	756	237	31.3%
山口	2,312	626	27.1%	1,567	367	23.4%	726	69	9.5%	544	266	48.9%
徳島	911	259	28.4%	977	278	28.5%	331	30	9.1%	294	102	34.7%
香川	1,676	475	28.3%	1,424	389	27.3%	622	5	0.8%	416	151	36.3%
愛媛	1,928	576	29.9%	1,383	308	22.3%	634	116	18.3%	465	173	37.2%
高知	1,014	317	31.3%	977	321	32.9%	454	87	19.2%	212	71	33.5%
福岡	7,864	2,493	31.7%	5,963	1,710	28.7%	1,981	146	7.4%	1,871	800	42.8%
佐賀	1,712	574	33.5%	1,439	477	33.1%	586	89	15.2%	417	178	42.7%
長崎	1,920	679	35.4%	1,579	509	32.2%	457	46	10.1%	439	144	32.8%
熊本	3,056	983	32.2%	2,453	699	28.5%	1,087	114	10.5%	913	305	33.4%
大分	2,149	846	39.4%	1,700	564	33.2%	637	72	11.3%	541	177	32.7%
宮崎	2,389	1,038	43.4%	1,429	415	29.0%	792	163	20.6%	518	187	36.1%
鹿児島	3,186	1,165	36.6%	2,224	669	30.1%	711	74	10.4%	676	181	26.8%
沖縄	1,919	46	2.4%	1,843	71	3.9%	983	1	0.1%	356	9	2.5%
全国計	168,627	51,294	30.4%	129,177	33,904	26.2%	44,947	3,880	8.6%	34,034	14,133	41.5%
標準偏差			10.2			7.3			6.0			10.7

出典：国土交通省 建築着工統計調査（再掲）部分を再集計



木造ハウジングコーディネーター資格試験

成績優秀者表彰

上位得点者5名の表彰式および記者発表会をオンラインにて開催

木住協は、2020年度木造ハウジングコーディネーター資格試験で、特に優秀な成績で合格した5名を称える成績優秀者表彰式をオンラインにて開催した。20回目を数える今回の資格試験は、コロナ禍ということもあり、WEB配信による講習会の開催や、全国35都道府県に設置された95ヶ所のテストセンターにおけるデジタル試験が導入されるなど、例年とは異なる新たな形での実施となった。表彰式には、そうした環境の中でも試験に挑み高得点を獲得した、住友林業クレスト(株)の鹿島萌さん、(株)オープンハウス・アーキテクトの田畑新子さん、同社の篠本寛太さん、藤川真優さん、犬井陽平さんの5名がリモートで参加し、合格の喜びと今後の意気込みを語った。

理想の住まいをコーディネートできる、住宅建設に係わる営業職・設計職を育成し、木造住宅業界の発展に寄与することを目的として平成13年にスタートした資格制度。



ホスト会場となった東京・六本木の協会事務局の様子



開会挨拶をされる越海専務理事



概要報告をされる青木研修部長

成績優秀者表彰式では、初めに越海専務理事が挨拶に立ち、「皆様おめでとうございます。本資格試験は、今回で20回目を迎え、木住協の会員企業637社様のご支援の下、これまで累計6000名弱の有資格者を輩出し、住宅業界で活躍しております。今年度はコロナ禍で試験予定等を大幅に変更せざるを得ず、受験者のみなさんを戸惑わせたのではないかと心配をしていましたが、結果として多くの合格者を得ることができ、大変良かったと思っております。」と祝辞を述べた。

今後は会員企業以外への幅広い認知とWEB受講者数・受験者数増加が目標

続いて、青木研修部長より今回の資格試験の概要が報告された。報告内容によると、今年度の合格点は、400点満点中274点。営業編では140点以上、技術編では121点以上とされ、332名が合格。合格率は76.8%と昨年より3.7ポイント低下した。また、受験者の推移はコロナ禍の実施ということもあり減少傾向に。青木研修部長からは「現状は大半が会員企業からの受験者です。受験資格は年齢18歳以上という年齢制限のみで、制度自体はオープンなものなので、今後はさらにPRを強化し認知度を高め、受験者を増やしていくことが課題だと考えています。」とのコメントも

述べた。

受験者に好評を博したテストセンターでのデジタル試験

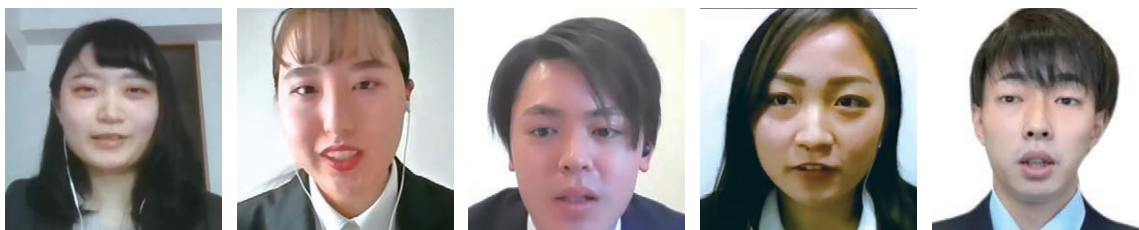
さらに、試験会場において、試験終了後にパソコン上で実施したアンケートの結果を報告。今回初めてのテストセンターにおけるデジタル試験であったため、今後の運営方法の検討資料を求めた。回答結果を見ると、試験方法については、7割近くの受験者が今回の方法を「良し」と回答。紙試験でもどちらでもよいと回答した受験者も含めると、95%の受験者が好意的な回答を示した。

喜びと感謝に満ちた受賞者の声

その後、越海専務理事から上位得点者より順に表彰された。オンライン表彰の為、事前に各参加者の手元に届いた表彰状と認定証をカメラに掲げながら表彰を受けた後、受賞者全員が合格と表彰の喜びを思い思いに語ってくれた。

● 住友林業クレスト(株) 鹿島萌さん

「私はこの5名の中では唯一新入社員一年目ということで、受験してみて基礎知識の習得という点で本当に有意義な時間になりました。今後実経験を積み重ねていく中で、



表彰された成績優秀者の皆さん。左から住友林業クレスト株の鹿島萌さん(392点)、㈱オープンハウス・アーキテクトの田畑新子さん(392点)、同社の篠本寛太さん(390点)、藤川真優さん(387点)、犬井陽平さん(386点)

今回勉強を通して得た知識をしっかりと身に付けていきたいなと思っています。本当にありがとうございました。」

● **㈱オープンハウス・アーキテクト 田畑新子さん**

「今回、五人中四人が同じ会社の内定者で、同期がたくさん受賞していることも嬉しく思っています。まだ学生ですが、入社してからスタートダッシュをきれいにしたいと思いついて勉強しました。限られた時間の中で知識がどんどん増えていくのは勉強していて楽しいなと思いました。四月から社会に出て働くにあたり、今回得られた知識を活用して今後会社にも社会にも貢献していきたいと思っています。」

● **㈱オープンハウス・アーキテクト 篠本寛太さん**

「私は当時他の資格の取得も目指して勉強していたので、二ヶ月という短い時間で凝縮して勉強を進めてきました。周りの同期や先輩方、社員の方に色々とお話をいただき、サポートしていただいたので感謝しております。表彰されたということに恥じないように、社会で活躍できるように人材になっていければと思います。」

● **㈱オープンハウス・アーキテクト 藤川真優さん**

「私は木造のことも建築のことも今まで無知でしたが、入社にあたって知識をつけるためにこの試験に臨みました。会社で行われた模擬テストの結果があまりにもひどく、そこから本気で勉強をしました。教育担当の方が教えてくれた勉強方法を実践し、講座も受けて、このような式に参加できるまでになることができました。これから社会に出てこの知識を活かせるように頑張りたいと思います。」

● **㈱オープンハウス・アーキテクト 犬井陽平さん**

「まずテキストが営業編と技術編で大事なポイントが分かれていて、とても分かりやすく僕にとっては木造建築の教科書のようなものでした。また会社が模試を開いてくれたおかげで、同期と競い合いながら、緊張感をもってモチベーションを保ちながら、勉強することができました。今回この中では一番最下位なんです(笑)、入社後はそれを覆せるように、次から一位になれるように、ストイックに努力していきたいと思っています。」

**コロナ禍での勉強法や
テキストの改善点に
言及した質疑応答**

審査会審査員長の東洋大学
名誉教授・上杉啓氏からは、コ



審査講評をされる上杉審査員長

ロナ禍でも諦めずに勉強を続けた受験者へ、そして過酷な環境下で試験運営を行った協会関係者への労いの言葉と共に、受賞者たちに勉強方法やテキストの改善点についての質問が投げかけられた。これに対し、田畑さんは「会社の方から一日20ページを目安に読んで、問題を解いて、復習するという方法をご提案いただき、基本的にはそれに従って、二ヶ月ほど勉強してきました。」とのこと。篠本さんは、「問題集を解きながら教科書でその問題集で出てきた部分に線を引いて勉強していました。教科書と問題集を照らし合わせながら探すのに時間がかかったので、そのあたりがわかりやすくなると助かると思います。」とのリクエストも語っていた。また、外部記者からは、今回受験者数が減少傾向にあった原因と対策についての質問もあがった。これに対し、青木研修部長は、減少原因としては、コロナ禍の不安定な環境の中で受験を諦めた方が多かったのではないかとし、今回の講習会のWEB配信やデジタル試験といった新たな試みに対し、高評価の声が多かったことを広く伝え、受験者増を目指したいと答えた。

**若い成績優秀者たちの今後の
業界貢献に期待を寄せて**

最後に村岡業務・広報委員長から、閉会の挨拶が述べられ「この業界では、大工さんの高齢化、後継者不足という問題が以前から言われております。一方で市場を牽引するお客様は、若年の一次取得の方が非常に増えております。皆さんのような若い方々が活躍されて、契約が増え、現場が増えれば、大工さん志望の若手の方々もきっと増加できると思いますし、業界として非常によい循環がもたらされると信じています。」と若い受賞者たちにエールを送るとともに、本資格制度もアップデートしながら前向きに進めて行きたいとの決意が語られ締めくくられた。



オンライン上で外部記者を招いての
質疑応答の様子



閉会挨拶をされる
村岡業務・広報委員長



木造ハウジングコーディネーター資格試験を活用し 即戦力を育てる新人育成プログラムの成功例

株式会社オープンハウス・アーキテクト 人材開発部

2020年度木造ハウジングコーディネーター資格試験の成績優秀者として表彰された上位5名のうち、なんと4名が株式会社オープンハウス・アーキテクトの内定者という結果であった。実は同社では、今回の試験でこの4名だけでなく、他にも多くの高得点獲得者を輩出している。本年度の新入社員のうち文系学部出身者のほとんどが内定段階で受験し、高確率で合格。しかも合格者の多くは高得点を獲得という輝かしい実績を残したのだ。その裏には、木造ハウジングコーディネーターに関する学習を巧みに採り入れた人材育成プログラムの成功があった。ここでは、企業側にも新入社員側にもメリットの多い、そのプログラムの実態とフォロー体制に迫る。

内定段階からのフォローアップで 業務へのソフトランディングをサポート

株式会社オープンハウス・アーキテクトでは、本年度46名の新入社員を迎えた。そのうち文系出身者は39名、建築系出身者は7名となっている。同社の新人育成の特長に、内定段階からのフォローアップがあげられる。例えば、建築系出身者には、内定段階から二級建築士資格取得を目指した学習を推奨しており、今後の業務に向けたより深い建築知識の習得を促している。一方で、文系出身者の多くは、建築について学んだ経験はなく、入社後の業務に対する不安も大きいと言う。そこで、木造建築に関する基礎知識を入社前にしっかりと学習し、建築業界に踏み入る基盤づくりにと、今年から木造ハウジングコーディネーター資格試験に向けた学習を推奨、新人育成プログラムの一環として採用している。

「当社としても初めての試みで、成果は未知数でしたが、新人達が非常に熱心に勉強してくれてここまで好成绩を収めてくれるとはと驚いています。」と人材開発部の山口さんは語るが、その受験者のモチベーション維持と好成绩は、受験者自身の大いなる努力はもちろん、加えて同社の



熱く人材開発の重要性を語る山口さん

手厚いバックアップの賜物ということが出来る。内定者には初夏の早い段階で、資格試験についてのアナウンスがあり、10月1日の内定式後に資格試験の説明会を開催。以降12月の試験に向けて、定期的に模試を



取材に応じてくださった株式会社オープンハウス・アーキテクト人材開発部の山口等さん(左)、西側晴さん(右)

行い学習をサポートした。「内定期間は入社後へのソフトランディング期間だと考えています。急に何もわからない世界に放り込まれて戸惑うよりは、助走期間である程度準備して、少しでもスムーズに職場に入って行ってもらえれば。ただ、学生さんにとっては学生生活最後の貴重な期間でもあるので、強制的にはではなく必要性を理解したうえで自主的に取り組み、学習と学生生活と時間を有効活用してもらいたいと思っています。」(山口さん)

試験合格に終わらない 実践的な知識習得を目指した入社後研修

では、入社後はどうなるかというと、木造ハウジングコーディネーター資格試験の学習を内定段階から組み込んだことにより、入社後の研修カリキュラムも今年からより充実した内容にバージョンアップしているという。

「入社後は資格取得は前提として、より高いレベルに目標を設定し、学習を続けてもらうようプログラムを組んでいます。資格試験では2択式の解答方法だと伺っていますが、資格取得後に用語や知識を使えなくては意味がないの



木造ハウジングコーディネーター試験に優秀な成績で合格した新入社員の皆さん。(左から)高岸花梨さん、犬井陽平さん、藤川真優さん、篠本寛太さん

で、木造ハウジングコーディネーター資格試験のテキストをもとにした記述式の試験を定期的に行い、より実践的な知識習得を目指しています。」(同氏) ちなみに、同社では、新入社員は内定段階から入社後2か月半までにわたる導入研修を経て、建築系出身・文系出身を問わず全員が現場監督として施工現場に配置される。入社間もない時期に、最前線に指揮役として立たなければならないことを考えると、この導入研修が重要な役割を果たすことになる。そこで同社では、5つのステップからなる新人育成プログラムを設定し、万全のバックアップ体制を敷いている。まずは入社後必要不可欠になってくる仲間づくりや社会人としてのマインドセット、主体性や協調性、チームワークや考え抜く力といった社会人基礎力を培う。その後、木造ハウジングコーディネーターに関する学習を含む建築一般の基礎知識や、自社の仕様・商品知識を学ぶことで基礎知識をつけたうえで、監督業務の理解とその実践、といった流れで、社会人としてのベースづくりから実践的内容まで、順番に組み上げていく形となっている。

木造ハウジングコーディネーター資格試験の有効活用が即戦力を育む要に

同社では、この新入社員のスタートダッシュをサポートする研修に木造ハウジングコーディネーター資格の学習が巧みに組み込まれており、この試みのメリットは大きいと山口さんは語る。「当社のように企業規模が拡大していく成長期にある段階では、いち早く即戦力を育てるために人材育成にも創意工夫が必要です。そんな中で木造ハウジングコーディネーター資格試験の学習を内定段階からうまく活用した建築の基礎知識習得は、業界未経験の新人達の不安解消にも、企業側の即戦力育成にも効果的なひとつの方法だと感じています。私たちの取り組みが会員企業の皆様の参考となれば幸いです。」(同氏)

木造ハウジングコーディネーター合格者の声

Q 受験を勧められた時の感想は？



高岸花梨さん

初めはとても驚きました。文学部出身で建築の知識はなかったので、自分にできるのかなという不安もありながら、やらせていただけるなら頑張ろうという気持ちで受けました。

Q 今後現場で頑張りたいことは？

成績上位に入れた事が大きな自信になりました。デジタル試験など木住協さんの新しい試みのおかげで、コロナ禍でも受験できました。このような変化の大きい時代でもどんどん新しいことに挑戦したいです。



犬井陽平さん

Q 会社のバックアップの感想は？

試験までに会社で模擬試験がありました。点数が低いと補講があり、そこでより詳しく教えていただいたことで、徐々に理解が深まっていき、良い点数につながりました。



藤川真優さん

Q 今後の目標は？

勉強したことを無駄にしないよう、また、現場に出て使える知識をさらに培いたいです。表彰していただいたことに恥じないように、今後も努力を続けて行きたいと思っています。



篠本寛太さん



木造ハウジングコーディネーター資格試験分析

テストセンター利用と年代別成績のまとめ

2020年度木造ハウジングコーディネーターの資格試験におけるテストセンターの利用状況と、受験者の年代別の成績に関するデータがまとまった。

テストセンター利用によって生じたもっとも大きな変化は試験会場の増加で、2019年度が全国の主要9都市のみだったのに対し、2020年度は35都道府県、95ヶ所にまで拡大。なかには定員超えとなったテストセンターもあったが、運営事務局の迅速な対応によって、結果的にはほぼすべての受験者が希望地で受験できた。以前は、例えば関東エリアであれば受験のために群馬や新潟から東京まで足を運ばなければならなかったことを考えると、地方在住者の利便性は格段に高まったといえる。

留意すべきは40歳超の受験者が半減していることだが、これはやはりコロナ禍の影響が少なくないだろう。コロナ禍そのもの、あるいはコロナ禍が事業に影響を与えたことで受験を控えた人が多くいたと想像できる。

年代別の成績を見ると、学生(会員企業の内定者)が、総合得点でトップを獲得。学生を除く35歳までの若年層では、新卒1年目にあたる18～22歳の年代が健闘を見せている。これは、デジタルコンテンツや映像を介してのコミュニケーションに慣れている若い世代にとって、デジタル方式の試験という新しい形式が受け入れやすかったことも原因のひとつと考えられる。

また、40歳超の年代は、営業編でも技術編でも平均点を大きく超えており、総得点で学生に次ぐ高得点を得ている。その下の年代となる36～40歳でも平均点を超えていることを考えると、長年の業務経験が結果に対し大きな影響を与えていることは間違いないだろう。

本年度の開催に向けては、テストセンター受験のメリットを広範囲に発信し、特に40歳超の年代の受験者数回復に努めなければならない。また、学生の内定者に対しては、前頁の(株)オープンハウス・アーキテクトの取り組みのように本資格制度を有効に利用した事例を紹介し、積極的に本制度の拡大を図っていく必要があるだろう。

テストセンター 所在一覧

テストセンター総会場
[全国47都道府県 280ヶ所]

テストセンター利用会場
[全国35都道府県 95ヶ所]
(※赤字標記都市)

支部エリア

関東・東京地区

甲信越・中国・沖縄地区

●北海道支部[5ヶ所]
●札幌市(3ヶ所)
●旭川市
●函館市
●稚内市

●北見市
●帯広市
●釧路市
●室蘭市

●東北支部[6ヶ所]
●青森県青森市
●青森県八戸市(2ヶ所)
●青森県弘前市(2ヶ所)
●岩手県盛岡市
●岩手県釜石市
●岩手県一関市
●宮城県仙台市
●秋田県秋田市
●秋田県大館市
●秋田県北秋田市

●秋田県大仙市
●秋田県湯沢市
●山形県山形市(3ヶ所)
●山形県米沢市
●山形県鶴岡市
●福島県福島市
●福島県郡山市
●福島県会津若松市
●福島県南相馬市
●福島県いわき市

●関東地区[14ヶ所]
(東京都、神奈川県除く)
●茨城県水戸市
●茨城県守谷市
●茨城県下妻市
●茨城県土浦市(2ヶ所)
●茨城県つくば市
●茨城県龍ヶ崎
●栃木県宇都宮市
●栃木県那須塩原市(2ヶ所)
●栃木県下野市

●栃木県小山市
●群馬県前橋市
●群馬県高崎市(2ヶ所)
●群馬県太田市
●埼玉県さいたま市
●埼玉県川越市(2ヶ所)
●埼玉県富士見市
●埼玉県吉川市
●埼玉県所沢市
●埼玉県深谷市
●埼玉県上尾市

●甲信越地区[3ヶ所]
●新潟県新潟市
●新潟県長岡市
●新潟県佐渡市
●長野県長野市
●長野県松本市
●長野県東御市
●長野県安曇野市
●長野県飯田市
●山梨県甲府市(2ヶ所)
●山梨県富士吉田市

●東京都[18ヶ所]
●新宿区(2ヶ所)
●豊島区
●足立区
●千代田区(2ヶ所)
●中央区(3ヶ所)
●港区
●目黒区
●大田区
●世田谷区(2ヶ所)
●渋谷区

●神奈川県支部[2ヶ所]
●神奈川県静岡市
●静岡県浜松市
●静岡県沼津市

●九州支部[9ヶ所]
●福岡県福岡市(2ヶ所)
●福岡県北九州市(2ヶ所)
●福岡県久留米市
●福岡県福岡市
●福岡県古賀市
●福岡県筑紫野市
●福岡県筑後市
●佐賀県佐賀市(2ヶ所)
●長崎県長崎市(2ヶ所)
●長崎県佐世保市
●熊本県熊本市
●熊本県人吉市
●大分県大分市(2ヶ所)
●大分県別府市
●大分県佐伯市
●宮崎県宮崎市
●宮崎県延岡市
●宮崎県都城市
●鹿児島県鹿児島市
●鹿児島県枕崎市

●中国地区[4ヶ所]
●鳥取県鳥取市(3ヶ所)
●鳥取県境港市
●島根県松江市(2ヶ所)
●島根県益田市
●岡山県岡山市
●岡山県倉敷市(2ヶ所)
●岡山県津山市
●広島県広島市(2ヶ所)
●山口県山口市
●山口県下関市
●山口県宇部市
●山口県防府市

●四国支部[3ヶ所]
●香川県高松市(2ヶ所)
●徳島県徳島市(2ヶ所)
●愛媛県松山市
●愛媛県新居浜市
●愛媛県宇和島市
●高知県高知市(2ヶ所)

●近畿支部[11ヶ所]
●滋賀県大津市
●滋賀県近江八幡市
●京都府京都市(3ヶ所)
●京都府福知山市
●大阪府大阪市(4ヶ所)
●大阪府堺市(2ヶ所)
●大阪府豊中市(2ヶ所)
●大阪府岸和田市
●大阪府東大阪市
●大阪府守口市
●大阪府枚方市
●大阪府阪南市
●大阪府四條畷市
●大阪府岸和田市
●兵庫県神戸市(2ヶ所)
●兵庫県姫路市
●兵庫県西脇市
●兵庫県洲本市
●兵庫県南あわじ市
●奈良県奈良市
●奈良県橿原市
●奈良県桜井市
●和歌山県和歌山市
●和歌山県田辺市

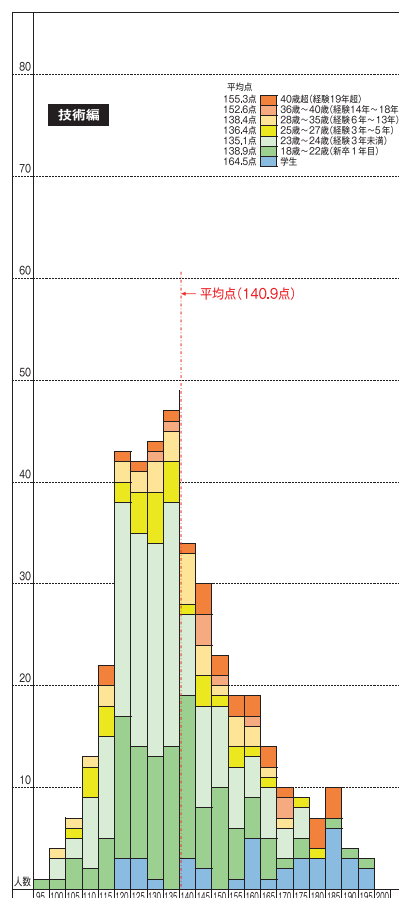
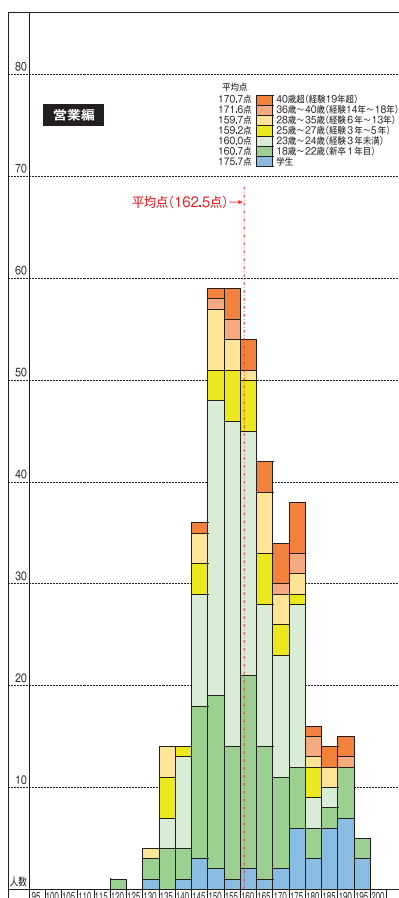
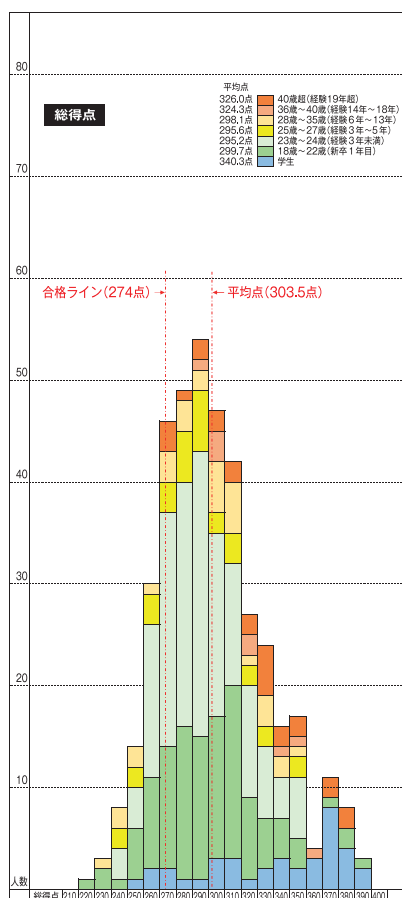
●北陸支部[4ヶ所]
●富山県富山市
●富山県高岡市
●富山県新川郡
●石川県金沢市(2ヶ所)
●石川県かほく市
●福井県福井市
●福井県越前市

●中部支部[10ヶ所]
●岐阜県岐阜市
●岐阜県岐阜市
●岐阜県高山市
●愛知県名古屋(5ヶ所)
●愛知県一宮市
●愛知県豊橋市
●愛知県瀬戸市
●愛知県知多郡
●三重県津市
●三重県四日市市
●三重県伊勢市

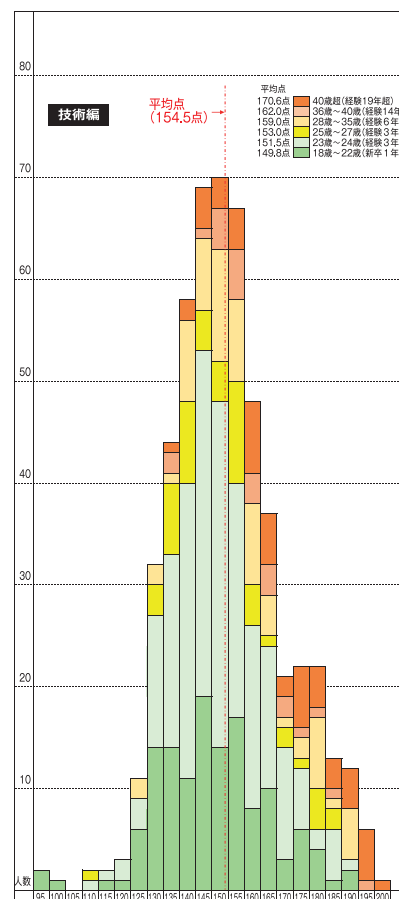
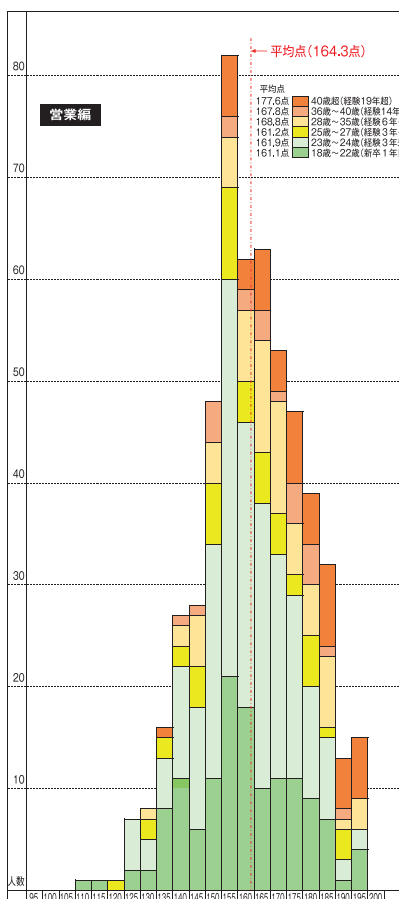
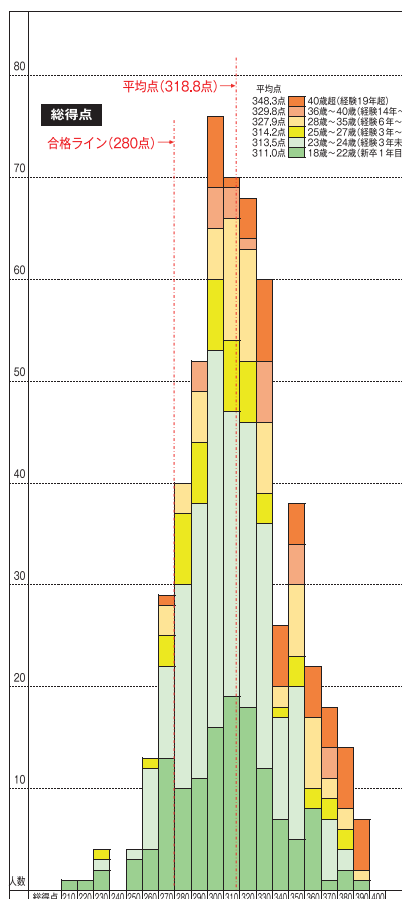
●沖縄地区[5ヶ所]
●沖縄県沖縄市(2ヶ所)
●沖縄県宜野湾市
●沖縄県宮古島市
●沖縄県石垣市



2020年度年齢別得点表



2019年度年齢別得点表





2021年度 木造ハウジングコーディネーター資格試験 および講習会の開催について

今年度で21回目を迎え、これまでの資格取得者は約6千人を数える「木造ハウジングコーディネーター」。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、初めて、講習会はWEB配信、資格試験は全国約100か所のテストセンターにてデジタルで行う方式にて実施しました。受講者および受験者からは安全で利便性が向上したと高評価をいただきました。

今年度も、引き続きDX時代を見据えた講習会及び資格試験を志向し、同様のWEB配信による講座、テストセンター活用による全国規模のデジタル方式試験といたします。

木造軸組工法住宅の基本から、設計・施工にわたる知識を広く学んでいただき、理想のすまいをコーディネートできる住宅営業職・設計職を育成することを目的とした「木造ハウジングコーディネーター」資格取得を、貴社の人材育成に是非ともご活用ください。

講習会

WEB配信(下記のいずれかの1週間のうち都合の良い時間帯を選択して受講)

配信日程

- 《第1回》10月 7日(木)～13日(水)
- 《第2回》10月14日(木)～20日(水)
- 《第3回》10月21日(木)～27日(水)
- 《第4回》10月28日(木)～11月3日(水)

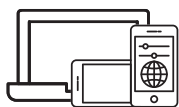
資格試験

試験日：2021年12月1日(水)
10時～18時までの約2時間

会場：全国約100か所の
テストセンターを自由選択

木造ハウジングコーディネーター講習会・資格試験

講習会に代わって eラーニング



PC・スマホ・タブレット
があれば、どこでもOK



決められた期間の
好きな時間に受けられるので
時間に無駄がありません



小テストの結果で
学習成果が分かりやすい



自宅や職場で受講できるので
移動不要で出費削減



分かりやすいカリキュラムで
シンプルで学びやすい

学び方のご提案

資格試験会場は 全国テストセンター



全国に多数の会場を用意
主要都市には複数の会場



好きな試験会場で受験
試験は紙からデジタルへ



試験室はソーシャルディスタンス
安心して受験できます

資材・流通委員会 「住まいのトレンドセミナー」開催

国土交通省 住宅局住宅生産課の遠山・木造住宅振興室長が、
見直しが行われた住生活基本計画などを解説



資材・流通委員会(澤田知世委員長)主宰による令和3年度第1回の「住まいのトレンドセミナー」が4月6日にWebセミナーという形で開催され、国土交通省の遠山明・住宅局住宅生産課木造住宅振興室長が「木造住宅・建築物の振興・普及」に

ついて講演した。

まず、最初の議題は「住生活基本計画(全国計画)」について。住生活基本計画は、平成18年に施行された住生活基本法に基づき、国民の住生活の安定の確保及び向上の促進に関する基本的な施策などを定めたものだが、5年ごとに見直しが図られており、この3月に4代目となる計画ができあがった。

遠山室長は、まずコロナ禍を契機とするライフスタイルの多様化やDXの急速な進展、自然災害の増加、カーボンニュートラルへの対応が急務となっていることなど、住生活をめぐる現状と課題を説明。新計画は、それらに対応するために「社会環境の変化の視点」「居住者・コミュニティの視点」「住宅ストック・産業の視点」という3つの視点から目標を設定し、施策を総合的に推進するとした。そして、計画にある施策のうち、木造住宅に関連するものを抜粋し、以下のように解説した。

- 「新たな日常」に対応し、住宅に関する契約・取引プロセスのDXを推進。対面が前提だった建築士法に基づく重要事項説明をオンラインで可能とした。また、今後は重要事項説明書を郵送ではなく、建築主の承認を得たうえでメールによる送信等で交付できるようにし、すべてオンラインで完結できるようにする。
- 安全な住宅・住宅地の形成のため、豪雨災害等の危険性の高いエリアでの住宅立地を抑制する。
- 住宅の年収倍率の上昇等を踏まえ、若年世帯・子育て世帯の都心居住ニーズもかなえる住宅取得を推進する。
- ライフスタイルに合わせた柔軟な住替えを可能とする

ため、既存住宅の情報が購入者にわかりやすく提示される仕組みの改善(安心R住宅、長期優良住宅)を行い、購入物件の安心感を高める。

- 既存住宅流通活性化のため、新築やリフォームだけでなく、既存住宅の売買に際しても瑕疵保険の充実や紛争処理体制の拡充等を推進し、購入後の安心感を高める。
- 遠山室長は、今後こうした計画に基づき、住宅政策を進めていくとした。そして、次にふたつめの議題である「令和3年度住宅生産課の予算」について解説を行った。

予算が充てられる主な事業は以下となる。

●地域型住宅グリーン化事業

地域住宅関連業者でグループを組み、共通ルール(例：県産材を60%以上使用など)を設定したうえで長期優良住宅やゼロ・エネルギー住宅を供給する場合に、1戸あたり長期優良住宅なら限度額110万円、さらに1次エネルギー消費量が省エネ基準から20%削減されていれば、さらに限度額を30万円引き上げる等補助を行う。

●長期優良住宅化リフォーム推進事業

既存住宅の長寿命化や省エネ化等に資する性能向上リフォーム等を行う場合に1戸あたり原則100万円を限度とし補助を行う。令和3年度の拡充事項として防災性・レジリエンス性向上改修も対象に加えられ、瓦屋根の台風対策、自動車から電源供給が行えるようにするVtoH、蓄電池を設ける場合などに対しても補助が出るようになった。

●住宅ストック維持・向上促進事業

建築士や工務店、金融機関など、関係主体が連携した協議会をつくり、良質な住宅ストックが適正に評価されるように、住宅ストックの維持向上・評価・流通・金融等の仕組みを開発・普及する取り組みに対し補助を行う。

最後に、遠山室長は、新型コロナで落ち込んだ需要を加味し、住宅ローン減税、住まい給付金、贈与税の非課税措置等、昨年度に措置されたもののうち、いくつかは令和3年度も期間を延長して適用すると説明。「施策の積極的な活用を期待している」とし、講演を終えた。

国交省の「木造住宅施工体制整備事業」を活用した短期技能講習 「木造軸組大工技能の基礎コース」を実施

ポリテクセンター静岡にて会員など4社の社員がモデル棟を建設実習

木住協 生産技術委員会は、3月14日から19日までの5日間、静岡県静岡市駿河区のポリテクセンター静岡(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 静岡支部静岡職業能力開発促進センター)で、「木造軸組大工技能の基礎コース」を実施した。大工技能者の育成や木材加工の基礎的な技能習得を目的とした実技中心の短期集中講習で、非会員企業も含め4社4名が参加し、金物の取り付けや規矩術の基本、図面の理解といった座学その他、実際に模擬棟を建設して道具の使い方や構造材の加工、仕上げ工事などを実習。延べ35時間にわたる全行程を指導教官の熱心な指導のもと、慣れない道具や作業に悪戦苦闘しながらも真剣に取り組み、知識と技能の習得に励んでいた。

大工技能者不足解消の足掛かりを目指す 広く門戸の開かれた基礎講習

大工技能者不足が進む昨今、木造建築の基礎的な知識・技能の継承が危ぶまれ、技能者育成が急務と考えられる中、木住協は国土交通省の「地域に根ざした木造住宅施工体制整備事業」を活用し、この技能講習を実施した。初めての実施となった昨年に続き、2回目の実施となる。木造軸組み住宅の大工技能者に必要な基本知識のほか、手道具を使った木材加工の技能などを習得することを目指し、大工技能の継承、技能者育成というその目的から、会員企業のみならず広く非会員企業も参加対象としている。今回の技能講習に参加したのは、青井建築(愛知県宮市)、諸戸の家株式会社(三重県桑名市、1種B正会員)、株式会社シバタホームズ(埼玉県蕨市)、有限会社山内産業(香川県観音寺市)の会員1社と非会員3社の計4社から派遣された4名。年齢層も24歳から46歳までと幅広く、職種も若手大工技能者の他、土木工事や内装工事関係者、現場監督など様々で、それぞれが今後、仕事の幅を広げ、一層の活躍に役立つ知識と経験を得る目的で参加した。参加者は、会場となったポリテクセンター静岡に近い宿泊施設から通いながら講習を受講した。また、今回は初めて静岡大工建築業協同組合に所属する現役大工の方々を指導教官に招き、現場で活躍する大先輩からの生きた技能のレクチャーが実現した。

社会人マナーから、道具の扱い方、木工事 作業手順の実体験までを学ぶカリキュラム

講習初日は、オリエンテーションの後、現場で働くためのマナーやコミュニケーションの必要性を理解するための「社会人の基礎講習」、丸のこの正しい使い方を学ぶため



指導教官の丁寧な説明に耳を傾ける参加者達。



疑問点を何度も確認しながら、時にはマンツーマンでの指導も。

の作業台製作、のみ研ぎや砥石調整などの道具の手入れについて学んだ。二日目は、指導員の主導のもと足場の組み立て方を学んだり、安全帯の使用方法や金物、筋交いの取り付けなど、基本的技能を学びながら、実技用モデルで組立て実習を行った。三日目には、建築基準法や品確法の仕様規定に基づいた施工方法や材料・部材の基礎知識から、木造建築の新技術までを学ぶ「木造軸組住宅概論」や、規矩



慣れないノミでの手刻み加工に挑戦する参加者。



使ったことのない道具での実作業に苦戦する姿も。

術の基本となる原寸図や加工図の読み方・書き方、さらには先張り防水シートの施工手順などの講習が座学形式で行われた。四日目からは座学で学んだ知識の実践として、作業用階段の施工や、垂木の加工作業に着手していた。

現役大工技能者の生きた技術を 実体験した有意義なモデル棟実習

講習4日目にはモデル棟で、小屋組みのための作業を中心とした実技実習が行われた。作業員たちは指導教官と共に図面を囲んで、座学で学んだ知識を振り返りながら、作業工程やひとつひとつの作業内容の説明を受けた後、各自実際に手を動かして大工技能を体験した。墨付けや規矩術といった木造建築の基本的な手作業を本格的に自分の手で行うのは初めてだという参加者がほとんどで、屋根勾配の墨付けを行う場面では、図面と手元のさしがねを何度も見比べ慎重に作業をすすめる姿や、のこやノミを使った手刻み加工の場面では、慣れない道具の扱いに悪戦苦闘しながらも懸命に作業する姿が見られた。指導教官の方々も参加者の様子をうかがいながら、図面を見て随時確認しながら進めるよう声を掛けたり、材料に対してのこぎりの刃を入れる角度や体の向きなど実践的なアドバイスを丁寧に伝えて細やかな指導を重ねていた。参加者たちは、時に図面と数字が合わなかったり、作業工程がわからなくなったり、思うように木材の加工ができず戸惑ったりと不安な表情を見せる瞬間もあったが、指導教官に見守られながら、皆一様に前向きな姿勢で実習に取り組んでいた。また、長年の現場経験を持つ指導教官に座学での教えと現場での



刃の角度や体の向きなどのアドバイスを受けながら技能を習得。

違いや、柔軟な対応の仕方をその場で学び、より有意義で貴重な経験となった様子だった。

基礎の基礎を一から経験できる 貴重な機会に感謝

指導教官の一人として参加した海野さんは、「参加者は手探りながらも前向きに取り組んでくれ感心しました。私は長年大工として現場の仕事をしており、若い方に教えることも好きなのですが、教えていると自分たちも勉強になることがたくさんあります。例えば現場での尺寸で身についている感覚と、図面上のメートル法での感覚の違いに戸惑ったり。自分の「教える技術」不足を痛感する点もありましたが、私たちにとっても貴重な経験の場です。」と語っていた。また参加者に感想を尋ねると、若手大工技能者である青井さんは「実際の現場ではプレカット部材を使うことが多く、規矩術などの経験はなかったので難しかったが、良い経験になったと思います。」とのこと。普段は土木関係に携わる山内さんは「ほとんど初めて体験する作業ばかりだったので新鮮で楽しかったです。ここで得た知識や技能は仕事の間でもチャンスがあれば活用したい。」と語ってくれた。指導側にとっても参加者側にとっても大工技能を伝え、理解する場として、豊かなコミュニケーションが生まれ、双方にとって貴重な経験の場となっていた。

指導教官の海野正嗣さん
(静岡大工建築業協同組合)参加者の青井弘家さん
(青井建築)参加者の山内常己さん
(有山内産業)

日本の世界遺産 探訪

SHIRETOKO

「知床」は、2005年に日本で13件目の世界遺産に登録されている。知床半島を背骨のように貫く急峻な連山、そして原生林を流れ落ちる70余りの河川、流氷が接岸する海……、圧倒的な大自然の中に希少な野生動物が生息する日本最果ての地である。

今回の世界遺産探訪は、陰しくも美しい陸と海が織りなす希少な生態系の宝庫である「知床」についてご紹介しよう。

北海道 知床

海と陸の生態系が織りなす野生動物の楽園

北海道の東北部にある海に向かって角のように突き出した半島が「知床」である。アイヌの人たちは、この地を昔からシリエトクー地の果てーと呼んでおり、これが転じて「知床」となった。荒波が寄せる海に囲まれ、圧倒的な大自然の力が人間を寄せつけないこの場所は、まさに日本最果ての地といって良いだろう。

細長い知床半島は、遠音別岳(おんねべつだけ)から羅臼岳、硫黄山、知床岳と標高1,500メートル級の山が連なっており、海面から山岳まで一気に変化する原生林の地形に



より、海と陸の生態系が狭い範囲で絡み合って連続し、ヒグマ、キタキツネ、オジロワシ、シマフクロウなどの希少動物が多く住んでいる。トドやクジラなどの海棲哺乳動物や渡り鳥にとっても貴重な立ち寄り地である。

それを支えているのが、流氷である。「知床」は北半球で最南の流氷域で、北極海から流れ着く流氷は大量の植物プランクトンを含み、春になって溶け出すと豊かな栄養を海に広げてサケなどの魚類を生育させて、食物連鎖の源となる。凍てつく氷の海は生命力あふれる豊饒の海なのである。このため、「知床」は、原生林に覆われた陸域とともに、沖合3キロメートルまでの海域が保護地域に指定されており、陸の生態系と海の生態系が織りなす世界的にも珍しい野生動物の楽園となっている。

知床連山の雄大な景観と流氷ウォッチが注目ポイント

「知床」の世界遺産地域を訪れるには、ラウス(羅臼)側とウトロ(宇登呂)側の二つのルートがある。

東側の根室海峡に面したラウスルートは、知床羅臼ビジターセンターを拠点として、原生林に点在する大小の沼を巡って羅臼湖に至る散策コースや、羅臼温泉から羅臼平に至り活火山である硫黄山へと向かう登山道などが整

備されており、知床連山の雄大な景観を満喫できる。また、羅臼港から出航して知床岬に向かう流氷ウォッチクルーズやホエールウォッチクルーズも人気が高い。

一方、西側のオホーツク海に面したウトロルートは、「知床世界遺産センター」や「知床自然センター」などのベースが設けられ、原生林に囲まれ

た大小五つの湖を散策できる知床五湖、別名「乙女の涙」と呼ばれるフレベの滝などの景勝地を訪れることができる。また、オホーツク海側の海岸線は、火山活動による噴出物が波浪や流氷によって削られてできた「海食崖」(かいしょくがい)と呼ばれる険しい断崖が続き、プユニ岬やオロンコ岩などの海の景観を楽しむことができる。

世界遺産「知床」登録概要

構成資産：知床五湖、知床峠、フレベの滝、オシンコシンの滝、プユニ岬、夕陽台、オロンコ岩、羅臼湖
所在地：北海道斜里町、羅臼町
記載年月日：2005(平成17)年7月
区分：自然
遺産区域：登録地域71,000ヘクタール(陸域48,700ヘクタール、海域22,300ヘクタール)
登録理由：1.季節海氷(流氷)が接岸することにより、海の生態系と陸の生態系が関係し合う特異な生態系が見られること。
2.国際的希少種の生息地や越冬地になっているなど、生物多様性にとって重要な地域であること。

新規会員紹介

1月から5月までに入会されました企業を紹介します。みなさん、よろしくお願いします。

(株)リガード

1種C正会員

代表取締役 内藤 智明

マーケティング力、営業力、設計力、施工力、組織力を武器にデザイン性、性能、コストパフォーマンスの高いその家族にとって最高のマイホームを提供する会社です。

〒185-0011 東京都国分寺市本多5-26-40

TEL : 042-320-4422 FAX : 042-320-4423

<https://tokyo-chumon.com/>

格建築設計

3種正会員

代表 高野 格

主に住宅の設計、耐震補強設計を行う設計事務所です。

〒264-0002 千葉県千葉市若葉区千城台東2-20-11

TEL : 043-308-6979 FAX : 043-308-7279

スマイルエイトデザイン

3種正会員

代表 伊藤 聡志

木の良さを生かし、耐震等級3やH E A T 20 G2を標準として設計しています。

〒481-0001 愛知県北名古屋市六ツ師道毛129-2

TEL : 090-2618-9732

(株)LifeGate

1種A正会員

代表取締役 朝山 英樹

デザインと高気密・高断熱性能を両立したライフゲートの家は、新しいライフスタイルをご提供いたします。

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-33

青葉六本木ビル4階

TEL : 03-5561-3322 FAX : 03-5561-3323

<https://lifegate.co.jp>

(株)フライング・ハイ・ワークス

賛助会員

代表取締役 松田 治人

2000年創業。企画から高品質なデザイン・コーディング・システムを一貫して行うウェブ制作会社。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-8

中村ビル4階

TEL : 03-5468-6013 FAX : 03-5468-6043

<https://flying-h.co.jp/>

Wood Life

3種正会員

代表 渡邊 高志

〒811-1242 福岡県那珂川市西隈1-19-1

TEL : 092-954-3159 FAX : 092-287-3331

(株)カモメトラスト

1種C正会員

代表取締役 高良 文紀

沖縄にて、自社分譲住宅及び注文建築を行っています。

〒901-0213 沖縄県豊見城市高嶺310-1 105号

TEL : 098-851-8275 FAX : 098-850-0300

<https://www.kamometrast.co.jp/>

(株)アンドパッド

賛助会員

代表取締役 稲田 武夫

施工管理・業務管理システム「ANDPAD」の開発、販売・運営。建設会社向けITコンサルティング・開発。

〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町300

住友不動産秋葉原駅前ビル8階

TEL : 03-6831-4550

<https://andpad.co.jp/>

Sデザインファーム(株)

3種正会員

代表取締役 鹿内 健

・建築・インテリアの計画、設計、監理

・シェアオフィスの企画、設計、運営

・家具・プロダクトの企画、デザイン及び製作

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-26-18

園ビルディング1階

TEL : 03-6280-7397

<http://s-designfarm.co.jp>

綺の家建業(株)

1種C正会員

代表取締役 足木 威之

四季折々のそよ風を感じるシンプルで素朴な自然素材を使った空間をデザイン、提案する工務店です。

〒442-0809 愛知県豊川市大橋町2-64

TEL : 0533-56-9159 FAX : 0533-56-9149

<https://e-kinoya.com>

河井林産(株)

1種B正会員

代表取締役 岡 悠紀好

地域材と自然素材にこだわった住宅「裸足で暮らす家」を造っています。桁・梁を化粧として使い、木の香りのなかで豊かに暮らす。

〒708-0841 岡山県津山市川崎112-1

TEL : 0868-23-1205 FAX : 0868-23-1204

<http://www.kawaihouse.net>

(株)やまぜんホームズ

1種A正会員

取締役 専務執行役員 國分 嘉美

「価格」・「デザイン」・「性能」・「アフター」にこだわり、快適・安心な暮らしができるお家づくりを叶えます。

〒511-0117 三重県桑名市多度町下野代900

TEL : 0594-48-5224 FAX : 0594-48-6556

<https://www.yamazen-k.co.jp>

(株)アルファ建築空間

1種B正会員

代表取締役 白仁田 正広

住む人が笑顔になれる木の家づくり。

〒849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2851-4

TEL : 0954-63-5517 FAX : 0954-63-2176

<https://www.alpha-as.jp>

なのの木設計(株)

1種C正会員

代表取締役 宮内 英章

木造住宅の設計施工をしています。高気密高断熱の注文住宅や高性能な建売物件を今後も作っていく予定です。

〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東3-1-7

TEL : 029-893-6170 FAX : 029-893-6173

<https://nananoki.co.jp>

(株)横田住建

1種B正会員

代表取締役 久高 健

木造住宅建築を中心に、地元のお客様や周辺企業様に向けたリフォーム・改修工事のご提案、公共工事なども手掛けております。川越市の顧客満足度No.1企業を目指して、これからも努力を重ねていきます。

〒350-1137 埼玉県川越市砂新田2-7-3

TEL : 049-245-3251 FAX : 049-243-8473

<https://www.yokota-j.jp>

建大ハウス(株)

1種B正会員

代表取締役 内山 広吉

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚2-2-25

TEL : 092-622-5600 FAX : 092-622-5631

<http://kendai-house.com>

(株)cucu-notch

1種C正会員

代表取締役 今井 晃一

「creation and renovation」をテーマに、住宅・店舗を中心とした設計・施工の会社です。

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-7-2

サンライズビル4階

TEL : 03-5927-9969 FAX : 03-5927-9965

<https://cucu-notch.com>



編集後記

2021(令和3)年度になっても、なお新型コロナウイルス感染症の収束までは長い道のりと感じられます。会員の皆様におかれましては、新常态(ニューノーマル)への対応に大変なご努力・ご苦労をなさっていることと推察いたします。日頃は、当協会運営に対し多大なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当冊子の編集活動も思うように出来ず、今号も約2カ月遅れの発刊となつてしまい、誠に申し訳ありません。また、連載記事の「頑張る企業訪問記」「リフォーム最前線」「木造ハウジングコーディネーター奮闘記」「税務談話室」、ならびに「支部だより」につきましては、休載させていただきます。今後とも、当冊子を通じて木住協の様々な活動について有益な情報をお届けしてまいります。(森)

訃報

木住協の設立当時(1986年)から、広報活動に携わっていただき、当冊子「木芽」の創刊より取材・執筆活動を続けていただいていた、街並みジャーナリストの藤田 房男様(享年71歳)は令和3年5月13日に逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表しご通知いたします。



〈埼玉県深谷市〉

旧渋沢邸 中の家

渋沢栄一の生地で23歳まで過ごした実家が「中の家」(なかんち)である。渋沢家は江戸時代から苗字帯刀を許された富裕な農家で、養蚕業と藍染の原料である藍玉の取引で財を成し、立派な門構えの屋敷であったという。

現在の主屋は、長男の栄一に代わって家督を継いだ妹の貞と夫の市郎が明治28年に上棟した住居である。梁間五間、桁行九間の切妻造二階建てで、屋根に煙出しと呼ばれる天窓があり、蚕室として使える風通しの良い二階がある典型的な養蚕農家の特徴を色濃く留めている。一階は典型的な豪農屋敷らしい六間取りの構成であるが、奥の十畳間は妹夫婦が東京で暮らす栄一のために造った上座敷である。多忙な合間を縫って年に数回帰郷する栄一が心地よく寝泊まりできるように、室内は金物を排した和らかな書院造りで、設えた檜の床板や鉄刀木の床柱にも地元大工の丁寧な仕事ぶりを見ることができる。

薬医門造りの表門の扉は檜の一枚板を使っており、奥武蔵の太木を探し求めて時間をかけて一枚ずつ集めたもの。この表門に入って正面が主屋、右側が副屋となっており、さらに四棟の土蔵がある。明治44年に建て替えられた副屋は「お店」と呼ばれていて、かつては藍玉の販売所として使われていたという。栄一も家の商売を手伝う中で実業家としての才覚を培ったのかもしれない。

旧渋沢邸 中の家 埼玉県指定旧跡 深谷市指定史跡

建 築 明治28(1895)年
所 在 地 〒366-0006 埼玉県深谷市血洗島247-1
電 話 048-587-1100(渋沢栄一記念館)
開館時間 9時～17時
休 館 日 年末年始
入 館 料 無料
所有管理 深谷市

<http://www.mokujukyo.or.jp>



一般社団法人
日本木造住宅産業協会



木 芽 2021年6月30日発行

Vol.179

発行人 越海 興一 編集 業務・広報部
〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階
電 話 03(5114)3010(代) FAX 03(5114)3020